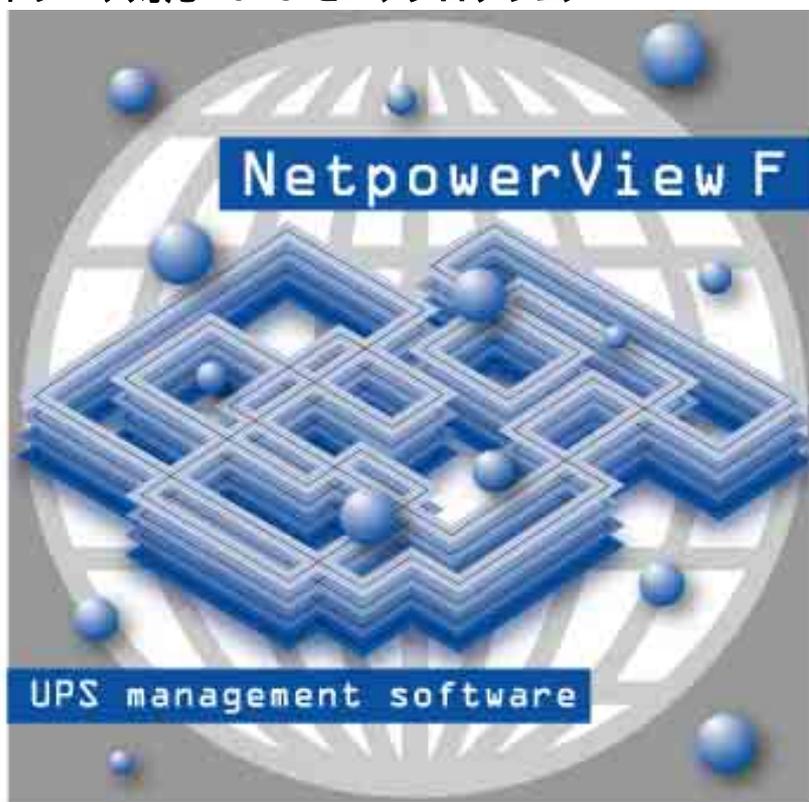


ネットワーク対応 UPS モニタプログラム



NetpowerView F[®]
Red Hat Linux 9 用
ユーザース・ガイド

使用許諾条項

本ソフトウェアをご使用になる前に、下記の使用条件をよくお読み下さい。

ご使用になられた時点で、下記使用条件に同意して富士電機株式会社(以下富士電機といひます。)との間で契約が成立したものとさせていただきます。

1. 本ソフトウェアおよびその複製物に関する権利はその内容により富士電機または富士電機への提供者に帰属します。
2. 富士電機は、本ソフトウェアのユーザ(以下ユーザといひます。)に対し、本ソフトウェアに対応する富士電機製品を利用する目的で本ソフトウェアを使用する非独占的権利を許諾します。
3. ユーザは、本ソフトウェアの全部または一部を修正、改変、リバース・エンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブル等することはできません。
4. 富士電機および富士電機への提供者は、本ソフトウェアがユーザの特定の目的のために適当であること、もしくは有用であること、または本ソフトウェアに瑕疵がないこと、その他本ソフトウェアに関していかなる保証もいたしません。
5. 富士電機および富士電機への提供者は、本ソフトウェアの使用に付随または関連して生ずる直接的または間接的な損失、損害等について、いかなる場合においても一切の責任を負いません。
6. 本製品の使用による金銭上の損害、損失利益につきましては一切その責任を負いません。
7. 本製品の誤記等により生じた損害及び付随的損害については一切その責任を負いません。
8. ユーザは、日本国政府または該当国の政府より必要な許可等を得ることなしに、本ソフトウェアの全部または一部を、直接または間接に輸出してはなりません。
9. 富士電機は、本ソフトウェアについて第三者からなされるいかなる権利主張に対しても一切その責任を負いません。
10. ユーザが、本契約に違反した場合には、本契約は直ちに終了するものとします。本契約の終了後は、ユーザは、本ソフトウェアを使用してはいけません。
11. 富士電機は、改良のため、本ソフトウェアの内容を予告なく変更することがあります。
12. 本ソフトウェアの無断配布、無断転載を禁止します。
13. ユーザは、1台のサーバでUPS管理プログラムを利用することを許可されます。複数のサーバでUPS管理プログラムを利用する場合は、各サーバ毎に使用承諾をうけなければなりません。
14. ユーザは、複数のワークステーションでUPSモニタプログラムを利用することを許可されます。
15. ユーザは、1つのキーコードに対して1台のスレーブサーバでリモートシャットダウンモジュール(RCCMD)を利用することを許可されます。複数のスレーブサーバでリモートシャットダウンモジュールを利用する場合は、各サーバ毎に使用承諾をうけなければなりません。
16. ユーザは、同一マスターサーバからネットワーク経由でシャットダウン指令を受ける複数のスレーブサーバは、リモートシャットダウンモジュールをインストールする際に、各サーバ毎に異なるキーコードが必要です。

著作権

著作権は富士電機(株)が保有しています。

商標

NetpowerView Fは富士電機(株)の登録商標です。その他すべての登録商標、商品名、会社名は各企業の所有物であり、情報の記載のみを目的として使用されます。

目次

第1章 UPS モニタプログラム	1
1.1. UPS モニタプログラムの起動	1
1.2. UPS モニタプログラムの開始	2
第2章 モニタプログラム主画面	4
2.1. メニュー	4
2.2. ツールバー	4
2.3. サーバ名の表示	4
2.4. ロケーションの表示	4
2.5. イベントリスト・ペイン	5
2.6. UPS 型式名の表示	8
2.7. 時刻の表示	8
2.8. UPS 配電図	8
2.9. ステータス・ペイン	9
2.10. 運転状態ビット・ペイン	11
第3章 メニュー・コマンド	12
3.1. ファイルメニュー	12
3.1.1. 接続	12
3.1.2. 切断	13
3.1.3. サーバ検索	13
3.1.4. 再検索	13
3.1.5. イベントログ	14
3.1.6. データログ	15
3.1.7. 終了	15
3.2. 設定メニュー	16
3.2.1. 動作環境設定	16
3.3. 機能メニュー	18
3.3.1. パスワードの入力	18
3.3.2. コマンド実行	19
3.3.3. シャットダウン	20
3.3.4. 特殊操作	25
3.4. スケジューラ	28
3.5. ヘルプメニュー	28
3.5.1. ヘルプ	28
3.5.2. UPS モニタについて	28
第4章 ツール・バー	29
4.1. 接続	29
4.2. 切断	29
4.3. サーバ検索	29
4.4. 再検索	29
4.5. イベントログ	29
4.6. データログ	30
4.7. 動作環境設定	30
4.8. コマンド実行	30
4.9. シャットダウン	30

4.10. 特殊操作	30
4.11. スケジュール設定	31
4.12. ヘルプ	31
4.13. 終了	31
第5章 ログ・ファイル	32
5.1. ログ・ファイルの設定	32
5.2. イベント・ログ・ファイル	32
5.3. イベント・ログ・ファイル読み込み	32
5.4. データ・ログ・ファイル	32
5.5. データ・ログ・ファイル読み込み	33
第6章 スケジューラ	34
6.1. スケジュール動作	34
6.2. スケジューラ画面の呼び出し	36
6.3. 指定日のシャットダウンスケジュール	38
6.4. 毎日のシャットダウンスケジュール	43
6.5. 毎週のシャットダウンスケジュール	47
6.6. 指定日のバッテリーテストスケジュール	52
6.7. 毎日のバッテリーテストスケジュール	57
6.8. 毎週のバッテリーテストスケジュール	61
6.9. スケジュール運転の前後に停電が発生した場合の動作	65
第7章 付録	68
7.1. トラブルシューティング	68
7.1.1. スケジュールによるシャットダウンが開始されない。	68
7.1.2. スケジューラで新規スケジュールの登録が出来なくなった。	68
7.1.3. Linux で FireWall 設定を適応すると UPSMAN と接続できない。	68

第1章 UPS モニタプログラム

UPS モニタプログラムは以下の NetpowerViewF の UPS 管理プログラムに対応しています。

表 1 UPS 管理プログラム対応表

UPS 管理プログラムバージョン (Windows 版)	UPS 管理プログラムバージョン (Linux 版)
5.0	5.0.00-1
5.3	5.0.00-2
5.3	5.0.00-3

上記対応表にない旧バージョンの UPS 管理プログラムを使用中の場合は
UPS 管理プログラムのバージョンを更新して下さい。

1.1. UPS モニタプログラムの起動

UPS モニタプログラムを開始するためには、コンソール画面から以下のコマンドを入力します。

npvf <---- モニタプログラムの起動

インストールが正常に完了しているとパスは自動的に設定され、UPS モニタプログラムは任意のディレクトリから起動することが可能です。

1.2. UPS モニタプログラムの開始

モニタプログラムが起動されると、ネットワーク内で現在稼動している UPS 管理プログラムを自動的に検索し、検索結果が表示されます。

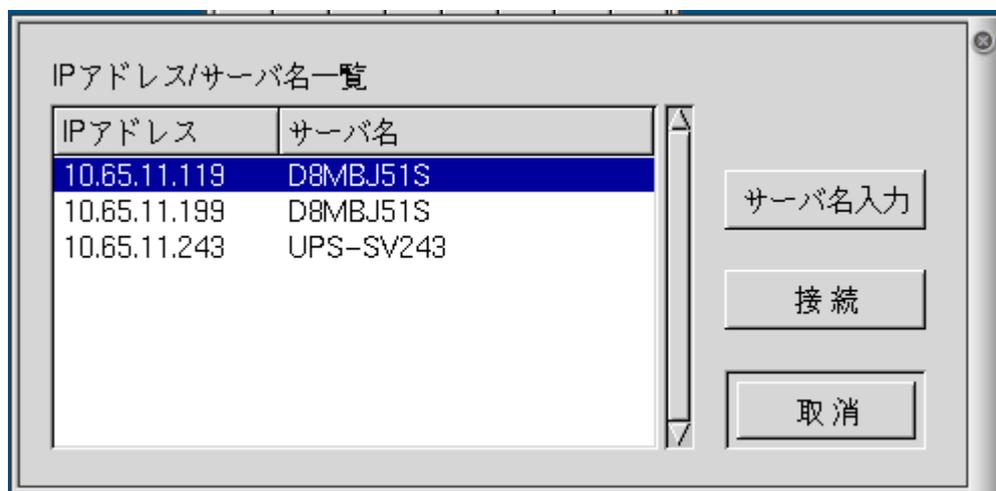


図 1 検索結果

表示された検索結果より接続対象のサーバを選択すると、選択されたサーバと接続されます。

発生日	発生時刻	イベント内容
11/01	15:55	UPS状態通常運転
--	--	サーバ: ups-sv245に接続

入力電圧	100.0	V
出力電圧	100.0	V
入力周波数	60.0	Hz
出力周波数	60.0	Hz
負荷率	040	%
バッテリー電圧	048.0	V
バッテリー容量	100	%
バッテリー周温	26.0	℃
周温平均値	25.0	℃
平均値算出日数	0 100	日
バックアップ可能時間	0 12	分

- 故障
- バッテリ異常
- バッテリテストNG
- バッテリテスト中
- 過負荷
- 入力異常
- バッテリ給電
- 通常運転
- 装置停止中
- シリアル通信切断

図 2UPS モニタプログラム主画面

第2章 モニタプログラム主画面

2.1. メニュー

画面上部にはUPS モニタプログラムの設定やUPS の操作等を行うためのコマンドを実行するメニュー・バーがあります。各メニュー項目の詳細については、“第3章メニュー・コマンド”を参照してください。

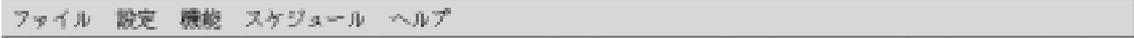


図 3 メニューバー

2.2. ツールバー

メニュー・バーの下にはツール・バーが表示されます。各ツールの詳細については、“第4章ツール・バー”を参照してください。



図 4 ツールバー

2.3. サーバ名の表示

現在監視を行っているサーバの名称が表示されます。

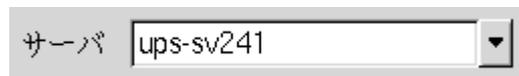


図 5 サーバ名

この表示はプルダウンとなっており、サーバ検索機能によって検索された各サーバが表示されます。

現在接続しているサーバとは別のサーバをクリックすると、現在の接続を切断し、選択されたサーバに接続し直します。

2.4. ロケーションの表示

UPS 管理プログラムの構成で設定したロケーションが表示されます。



図 6 ロケーション

2.5. イベントリスト・ペイン

イベント・リスト・ペインには、UPS モニタプログラムがサーバ(UPS 管理プログラム)に接続してから発生したイベントの一覧が発生順に表示されます。リストの各行はアイコン、イベント発生日付、発生時刻、イベント名で構成されており、新しい(最近起きた)イベントが最上部に表示されます。

	発生日	発生時刻	イベント内容
	11/01	15:55	UPS状態:通常運転
	--/--	--:--	サーバ: ups-sv245に接続

図 7 イベントリスト・ペイン

アイコンは発生したイベントによって三つに分けられます。

表 2 アイコン対応表

アイコン	表示レベル	イベント内容
	Information (情報)	UPSとの通信開始 入力復電 通常運転 過負荷解除 バッテリー接続 バッテリー電圧正常 バッテリーテスト正常終了 サーバとUPS間のRS-232C通信復旧
	Caution (注意)	入力異常 バックアップ中 過負荷発生 バッテリー切断 バッテリーテスト開始
	Warning (警告)	UPS故障: 温度異常 UPS故障: 出力電圧異常 UPS故障: 充電電圧異常 UPS故障: 中間電圧異常 UPS故障: 冷却ファン異常 バッテリー電圧低下 起動時入力異常 バッテリーテスト異常 装置停止 サーバとUPS間のRS-232C通信切断

イベント・リストに表示されるイベントの一覧を以下に示します。

注1) 接続しているUPSの型式名や、NetpowerView Fの設定/バージョンの違いによって、一覧に記載されていても発生しないイベントが存在することがあります。

表 3 イベントリスト一覧

	イベント名	イベントの内容
1	UPSとの通信開始	UPSとの通信開始
2	入力異常	入力異常発生
3	バックアップ中	バックアップ中 UPSの入力プラグコードが正しく接続されていることを確認して下さい。
4	入力復電	入力復電
5	通常運転	通常運転
6	過負荷発生	過負荷 UPSの負荷を減らして下さい。
7	過負荷解除	過負荷解除
8	UPS故障:温度異常	UPS故障:温度異常 周囲温度・換気を確認し、約10分ほどしてから本装置前面のRESETスイッチを約3秒間押下して下さい。上記操作を行ってもALARM LEDが消灯しない、又再点灯する場合は、弊社担当CEに御連絡下さい。
9	UPS故障:出力電圧異常	UPS故障:出力電圧異常 上記8と同じ
10	UPS故障:充電電圧異常	UPS故障:充電電圧異常 上記8と同じ
11	UPS故障:中間電圧異常	UPS故障:中間電圧異常 上記8と同じ
12	UPS故障:冷却ファン異常	UPS故障:冷却ファン異常 上記8と同じ
13	バッテリー切断	バッテリー切断
14	バッテリー接続	バッテリー接続
15	バッテリー電圧低下	バッテリーLowビットがON
16	バッテリー電圧正常	バッテリーLowビットがOFF
17	起動時入力異常	起動時入力異常 入力電圧または周波数の異常です。UPSの入力プラグコードが正しく接続されていることを確認して下さい。
18	バッテリーテスト開始	バッテリーテスト開始
19	バッテリーテスト正常終了	バッテリーテスト正常終了
20	バッテリーテスト異常	バッテリーテスト異常発生時

21	サーバと UPS 間の RS-232C 通信切断	サーバと UPS 間の RS-232C 通信切断時時 UPS と UPS 管理プログラムが動作しているサーバの RS-232C ケーブルが外れていないか確認してください。
22	サーバと UPS 間の RS-232C 通信復旧	サーバと UPS 間の RS-232C 通信復旧が復旧
23	装置停止	UPS 出力停止時

2.6. UPS 型式名の表示

接続先サーバが管理している UPS の型式名が表示されます。

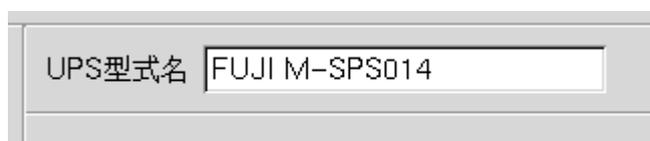


図 8 UPS 型式名

2.7. 時刻の表示

接続先サーバの内部時刻が表示されます。



図 9 時刻表示

2.8. UPS 配電図

接続先サーバが管理している UPS の現在の電力供給状態が表示されます。

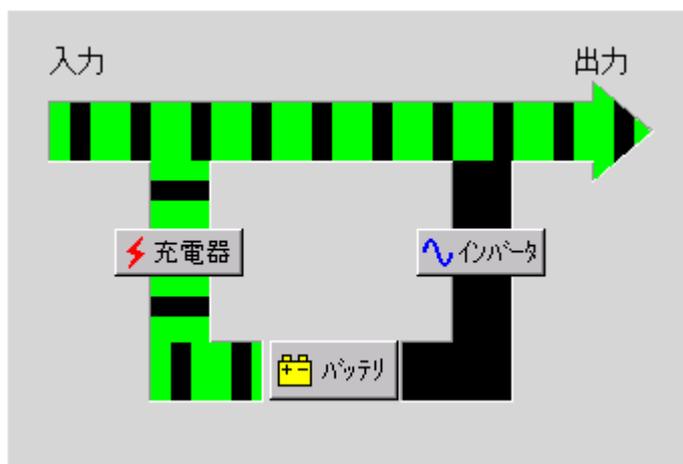
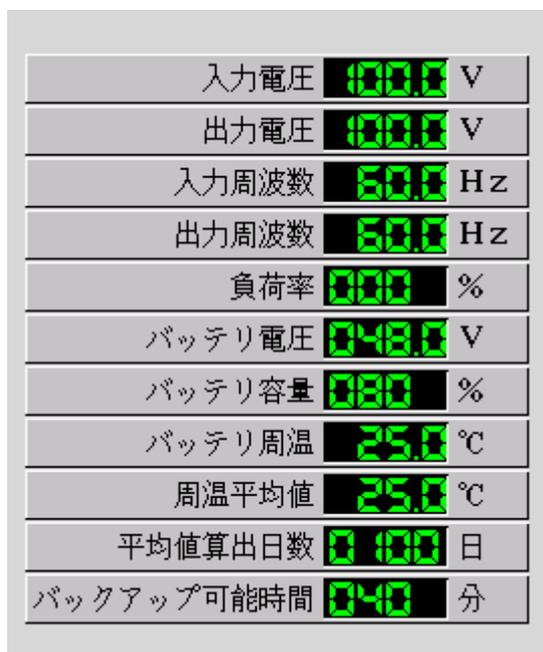


図 10 給電図

上記の給電図は通常運転時の電力供給状態を示しています。

2.9. ステータス・ペイン

ステータス・ペインには、現在の UPS の運転状況を示す文字列が表示されます。各状態値は、その値によって表示色が黄または赤に変化するものがあります。



入力電圧	100.0	V
出力電圧	100.0	V
入力周波数	60.0	Hz
出力周波数	60.0	Hz
負荷率	000	%
バッテリー電圧	048.0	V
バッテリー容量	080	%
バッテリー周温	25.0	°C
周温平均値	25.0	°C
平均値算出日数	0 100	日
バックアップ可能時間	040	分

図 11 ステータス・ペイン

ステータス・ペインの各項目の表示色を以下に示します。

表 4 ステータス・ペイン一覧表

	項目名	表示色	表示色(200V対応)
1	入力電圧	90V 電圧 110V:緑 85V 電圧 < 90V / 110V < 電圧 115V:黄 電圧 < 85V / 115V < 電圧:赤	180V 電圧 220V:緑 170V 電圧 < 180V / 220V < 電圧 230V:黄 電圧 < 170V / 230V < 電圧:赤
2	出力電圧	90V 電圧 110V:緑 電圧 < 90V / 110V < 電圧:赤	180V 電圧 220V:緑 電圧 < 180V / 220V < 電圧:赤
3	入力周波数	45Hz 周波数 65Hz:緑 周波数 < 45Hz / 65Hz < 周波数:赤	45Hz 周波数 65Hz:緑 周波数 < 45Hz / 65Hz < 周波数:赤
4	出力周波数	45Hz 周波数 65Hz:緑 周波数 < 45Hz / 65Hz < 周波数:赤	45Hz 周波数 65Hz:緑 周波数 < 45Hz / 65Hz < 周波数:赤
5	負荷率	負荷率 < 80%:緑 80% 負荷率 100%:黄 100% < 負荷率:赤	負荷率 < 80%:緑 80% 負荷率 100%:黄 100% < 負荷率:赤
6	バッテリー電圧	常に緑	常に緑
7	バッテリー容量	80% 容量 100%:緑 50% 容量 < 80%:黄 容量 < 50%:赤	80% 容量 100%:緑 50% 容量 < 80%:黄 容量 < 50%:赤
9	バッテリー周温	0 周温 40 :緑 周温 < 0 / 40 < 周温:赤	0 周温 40 :緑 周温 < 0 / 40 < 周温:赤
10	周温平均値	0 周温 40 :緑 周温 < 0 / 40 < 周温:赤	0 周温 40 :緑 周温 < 0 / 40 < 周温:赤
11	平均値算出日数	常に緑	常に緑
12	バックアップ 可能時間	3分 時間:緑 時間 < 3分:赤	3分 時間:緑 時間 < 3分:赤

2.10. 運転状態ビット・ペイン

運転状態ビット・ペインには、現在の UPS の運転状況を示すビットの値を示す各ボタンが表示されます。各状態ビットがONの場合にボタンが点灯します。



図 12 ビット・ペイン

各ボタンの内容を以下に示します。

表 5 ビット・ペイン一覧表

	ボタン	内容
1	故障	UPS に故障が発生した
2	起動時入力異常	起動時入力異常 入力電圧または周波数の異常です。UPS の入力プラグコードが正しく接続されていることを確認して下さい。
3	バッテリー異常	バッテリー異常が発生した
4	バッテリーテストNG	バッテリーテストNG UPS の入力プラグコードが正しく接続されていることを確認して下さい。
5	過負荷	過負荷 UPS の負荷を減らして下さい。
6	入力異常	入力電源に異常が発生した
7	バッテリー給電	バックアップ動作中
8	通常運転	通常運転中
9	装置停止中	UPS 出力停止中
10	シリアル通信切断	UPS と UPS 管理プログラムのシリアル通信切断

第3章 メニュー・コマンド

メニュー・バーから実行する各機能について説明します。

3.1. ファイルメニュー

メニュー・バーの「ファイル」をクリックすると、プルダウン・メニューが表示されます。



図 13 ファイルメニュー

3.1.1. 接続

「メニューバー」の「ファイル」から「接続」を選択します。(既に UPS 管理プログラムと接続されている場合は、この項目は選択不可となっています。)ローカルの UPS 管理プログラムと接続する場合は「ローカルホスト」を選択して「了解」のボタンを押します。ネットワークを介して別のサーバの UPS 管理プログラムに接続する場合は「サーバ名:」に IP アドレスまたはサーバ名を入力し「了解」を押します。



図 14 接続ウィンドウ

3.1.2. 切断

現在接続されている、UPS 管理プログラムとの通信を切断します。
既に切断されている場合はこの項目は選択不可となっています。

3.1.3. サーバ検索

現在動作している UPS 管理プログラムを検索します。既に UPS 管理プログラムと接続している場合はこの項目は選択不可となっています。

サーバ検索を実行すると、ネットワーク内で現在稼働している UPS 管理プログラムを自動的に検索し、検索結果が表示されます。表示された検索結果より接続対象のサーバを選択すると、選択されたサーバと接続されます。

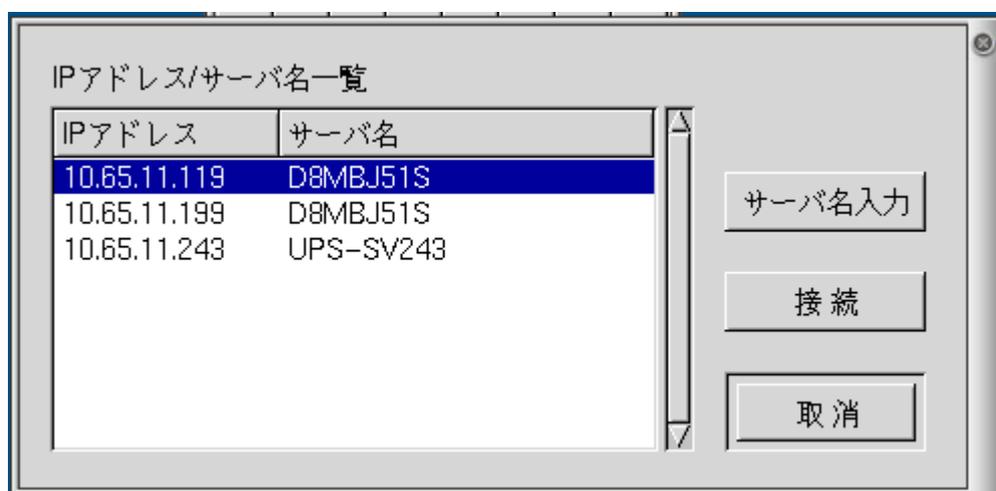


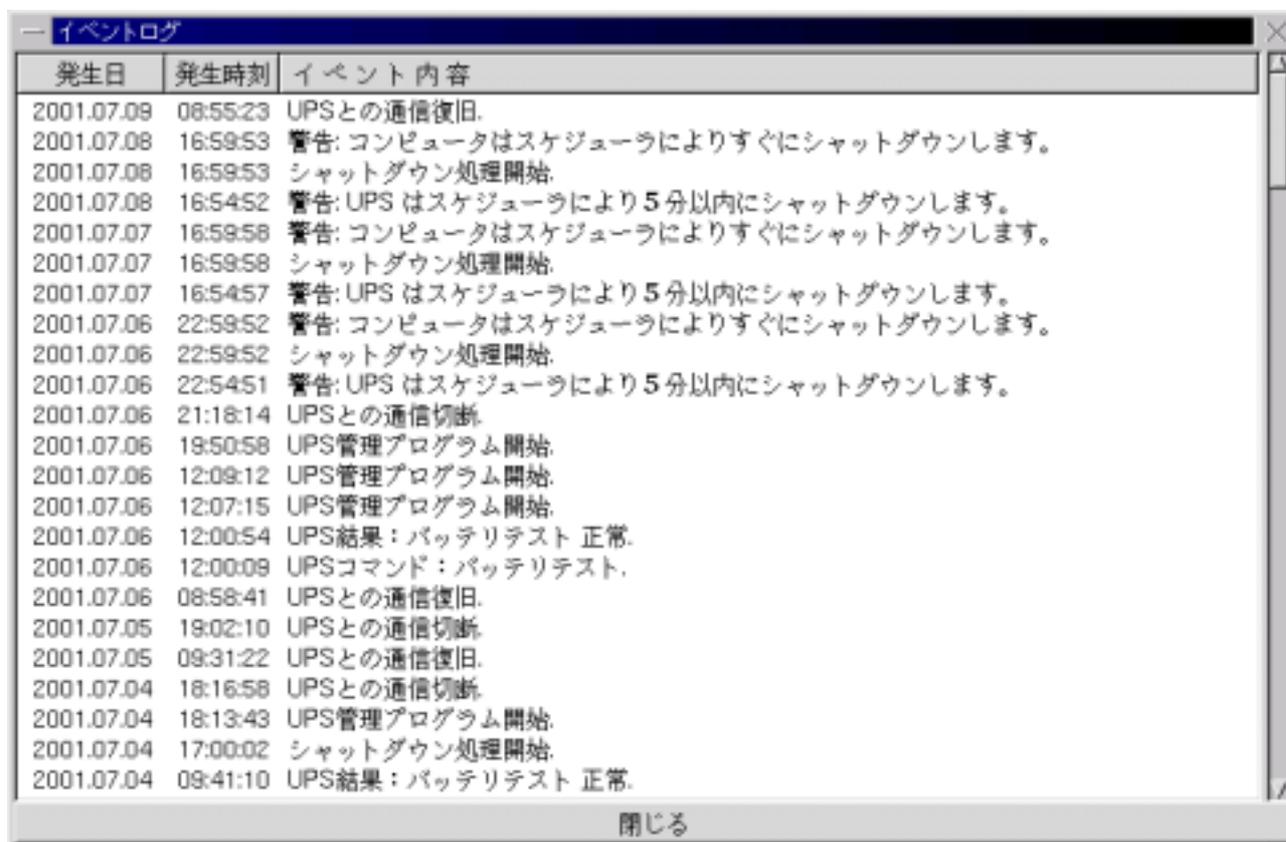
図 15 検索結果

3.1.4. 再検索

既に UPS 管理プログラムと接続している場合に、再度サーバ検索を行う場合はこの項目をクリックします。
UPS 管理プログラムと切断している場合はこの項目は選択不可となっています
検索結果は、2.3サーバ名の表示の内容に反映されます。

3.1.5. イベントログ

UPS 管理プログラムによりイベント発生が記録されているイベントログ・ファイルを表示します。
切断時にはこの項目は選択不可となっています。



発生日	発生時刻	イベント内容
2001.07.09	08:55:23	UPSとの通信復旧.
2001.07.08	16:59:53	警告: コンピュータはスケジューラによりすぐにシャットダウンします。
2001.07.08	16:59:53	シャットダウン処理開始.
2001.07.08	16:54:52	警告: UPS はスケジューラにより5分以内にシャットダウンします。
2001.07.07	16:59:58	警告: コンピュータはスケジューラによりすぐにシャットダウンします。
2001.07.07	16:59:58	シャットダウン処理開始.
2001.07.07	16:54:57	警告: UPS はスケジューラにより5分以内にシャットダウンします。
2001.07.06	22:59:52	警告: コンピュータはスケジューラによりすぐにシャットダウンします。
2001.07.06	22:59:52	シャットダウン処理開始.
2001.07.06	22:54:51	警告: UPS はスケジューラにより5分以内にシャットダウンします。
2001.07.06	21:18:14	UPSとの通信切断.
2001.07.06	19:50:58	UPS管理プログラム開始.
2001.07.06	12:09:12	UPS管理プログラム開始.
2001.07.06	12:07:15	UPS管理プログラム開始.
2001.07.06	12:00:54	UPS結果: バッテリテスト 正常.
2001.07.06	12:00:09	UPSコマンド: バッテリテスト.
2001.07.06	08:58:41	UPSとの通信復旧.
2001.07.05	19:02:10	UPSとの通信切断.
2001.07.05	09:31:22	UPSとの通信復旧.
2001.07.04	18:16:58	UPSとの通信切断.
2001.07.04	18:13:43	UPS管理プログラム開始.
2001.07.04	17:00:02	シャットダウン処理開始.
2001.07.04	09:41:10	UPS結果: バッテリテスト 正常.

閉じる

図 16 イベントログ

3.1.6. データログ

UPS 管理プログラムが UPS から取得した状態値が記録されているデータログ・ファイルを表示します。
切断時にはこの項目は選択不可となっています。別途

日付	時刻	入力電圧	入力周波数	入力電力	出力電圧	出力周波数	負荷率	バッテリ電圧	バッテリ周温	充電率
2001.06.20	11:05:02	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	11:10:09	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	11:15:15	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	11:20:22	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	11:25:28	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	11:30:34	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	11:35:40	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	11:40:46	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	11:45:52	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	11:50:59	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	11:56:05	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:01:11	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:06:17	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:11:24	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:16:31	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:21:37	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:26:43	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:31:49	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:36:55	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:42:01	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:47:07	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:52:13	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%
2001.06.20	12:57:19	100.0V	60.0Hz	0.00kVA	100.0V	60.0Hz	0%	48.0V	25.0°C	80%

図 17 データログ

3.1.7. 終了

UPS モニタプログラムを終了します。

3.2. 設定メニュー

メニュー・バーの「設定」をクリックすると、プルダウン・メニューが表示されます。

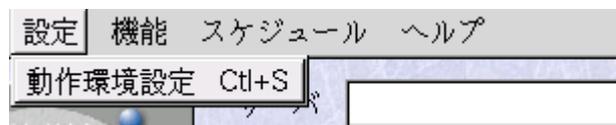


図 18 設定メニュー

3.2.1. 動作環境設定

UPS モニタプログラムの動作環境設定を行います。現在、接続先ポート番号、マネージャとの通信周期、レスポンス待ち時間上限値の各値の設定は不可となっています。



図 19 動作環境設定画面

ツールバーの表示

ツールバーの表示の変更を行います。

使用するツールバー表示を選択し、設定してください。

UPS モニタプログラムを一度終了し、再度起動させると設定が有効となります。

状態表示にアニメーションを使わない

2.8.UPS 配電図でアニメーションを使用する場合は、チェック無し

アニメーションを使用しない場合は、チェック有りとし、設定してください。

UPS モニタプログラムを一度終了し、再度起動させると設定が有効となります。

ヘルプ表示に使用するブラウザ

ヘルプ表示に使用するブラウザを選択します。

現在は、Netscape Communicator と Mozilla が選べます。

使用するブラウザを選択し、設定してください。

UPS モニタプログラムを一度終了し、再度起動させると設定が有効となります。

3.3. 機能メニュー

メニュー・バーの「機能」をクリックすると、プルダウン・メニューが表示されます。

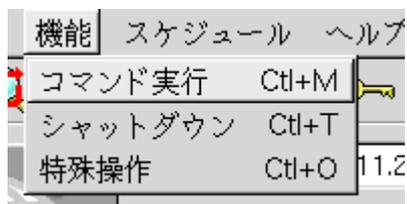


図 20 機能メニュー

3.3.1. パスワードの入力

機能メニューから実行する機能は全てパスワードによって保護されています。UPS 管理プログラム構成画面で設定されているパスワードを入力しない限り、UPS に対してどのような操作も行うことは出来ません。



図 21 パスワード入力ウィンドウ

パスワードを入力して「了解」ボタンを押してください。入力した文字は全て「*」に変換されるので、画面上でパスワードを読み取ることは出来ません。

3.3.2. コマンド実行

画面にはコマンド実行のためのボタンが表示されます。



図 22 コマンド実行ウィンドウ

バッテリーテスト

バッテリーテストを実行します。

LED / ブザーテストコマンド

LED / ブザーテストを実施します。

正常にテストが実行されると、ブザーが鳴動、UPS 前面の LED が 1 秒間点灯します。

シャットダウン中止

UPS のシャットダウン遅延中のシャットダウン処理を中止します。

注1) UPS がシャットダウン遅延中にもかかわらず、サーバが起動している場合、ダーティーシャットダウンを回避する場合などに使用します。

デフォルト設定では UPS 管理プログラムがサーバのシャットダウン処理開始後に UPS のシャットダウン遅延処理を行います、また UPS 管理プログラム起動時に UPS がシャットダウン遅延中であれば自動的に UPS 管理プログラムがシャットダウン遅延中を行うので、通常本機能は使用する必要はありません。

3.3.3. シャットダウン

サーバのシャットダウン/リブート及び、UPS の出力 / 再起動を直ちに行います。

本機能は以下の UPS 管理プログラムのバージョンに対応しています。

表 6 シャットダウン対応表

UPS 管理プログラムのバージョン
5.0 (Windows)
5.31 (Windows)
5.0.00-1 (Linux)
5.0.00-2 (Linux)
5.0.00-3 (Linux)

*WindowsNT4.0 は ServicePack5 以上

上記 UPS 管理プログラム以外ではシャットダウン機能を使用した場合、**UPS はシャットダウンを行いませんが UPS 管理プログラムと UPS モニタプログラムの接続が切断される場合があります。**

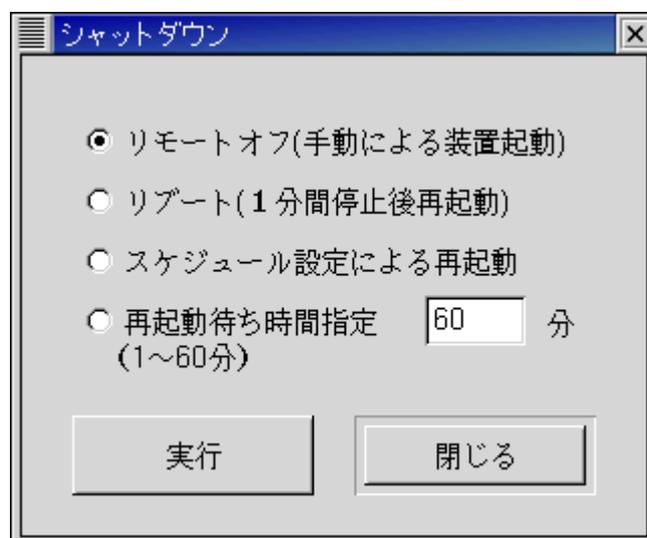


図 23 シャットダウンウィンドウ

リモートオフ

接続中の UPS 管理プログラムがインストールされているサーバと RCCMD の設定を行ってれば RCCMD がインストールされているスレーブサーバのシャットダウンを行い、その後 UPS 管理プログラムで設定した UPS 出力停止遅延時間後に UPS の出力を停止します。

リモートオフを実行した場合、サーバを起動するためには手動で UPS を起動する必要があります。

但し、リモートオフ後に商用電源が停電・復電すると UPS は出力を再開します。

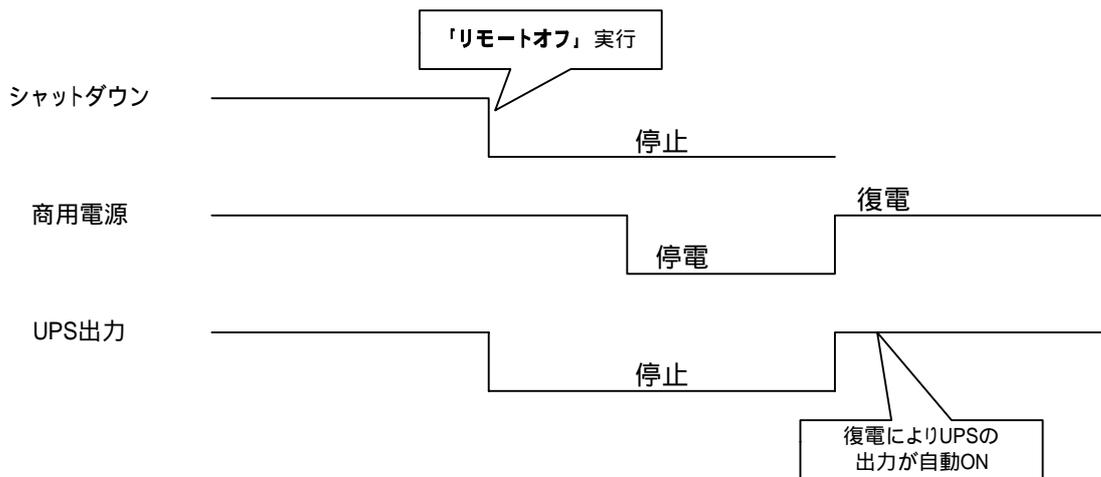


図 24 リモートオフ中に停電・復電発生

リブート

接続中の UPS 管理プログラムがインストールされているサーバと RCCMD の設定を行ってれば RCCMD がインストールされているスレーブサーバのシャットダウンを行い、その後 UPS 管理プログラムで設定した UPS 出力停止遅延時間後に UPS の出力を停止します。

UPS の出力停止から 1 分後に UPS は出力を再開します。

スケジュール設定による再起動

現在接続中のUPS管理プログラムがインストールされているサーバと、RCCMDの設定を行ってればRCCMDがインストールされているスレーブサーバのシャットダウンを行い、その後UPS管理プログラムで設定したUPS出力停止遅延時間後にUPSの停止を実行します。

UPSの出力停止後、スケジューラで設定したスケジュール起動時間でUPSの起動を行います。

また、スケジュール設定が0件の場合は、サーバシャットダウン、UPS停止のみ実行します。

例:スケジュール設定で、毎日19:00停止、08:00起動と設定している場合
本機能を17:00に実行すると、サーバシャットダウン、UPS停止を行い、
UPSは翌日08:00に起動します。

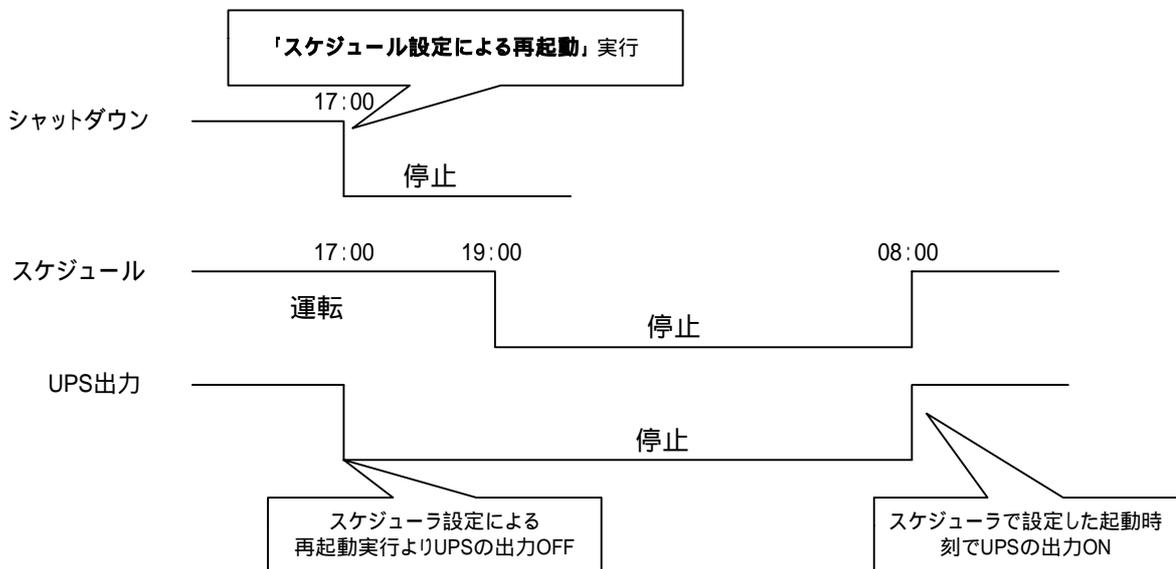


図 25 スケジュール設定による再起動

再起動待ち時間指定

接続中の UPS 管理プログラムがインストールされているサーバと、RCCMD の設定を行ってれば RCCMD がインストールされているスレーブサーバのシャットダウンを行い、その後 UPS 管理プログラムで設定した UPS 出力停止遅延時間後に UPS の出力を停止します。

UPS の出力停止後、設定した停止時間後の時間で UPS は出力を再開します。。

例:再起動待ち時間を 30 で実行

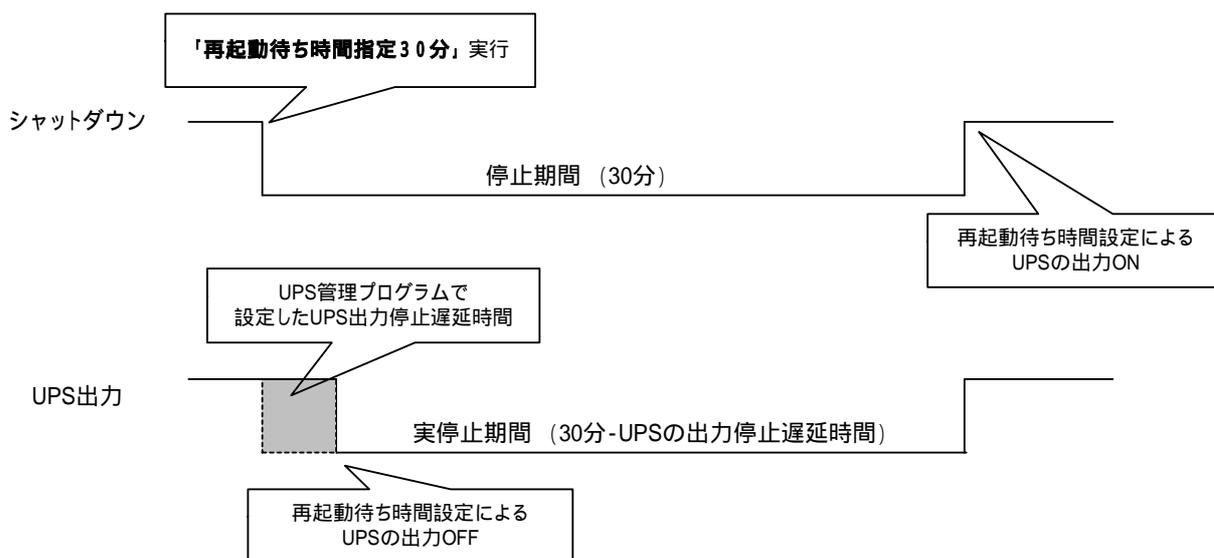


図 26 再起動待ち時間指定実行

ただし、UPS管理プログラムで設定されているUPS出力停止遅延時間と同じ時間、または少ない時間を指定した場合、UPS出力停止から1分後にUPSは出力を再開します。

例：UPS出力停止遅延時間は3分で設定時
再起動待ち時間2分で実行

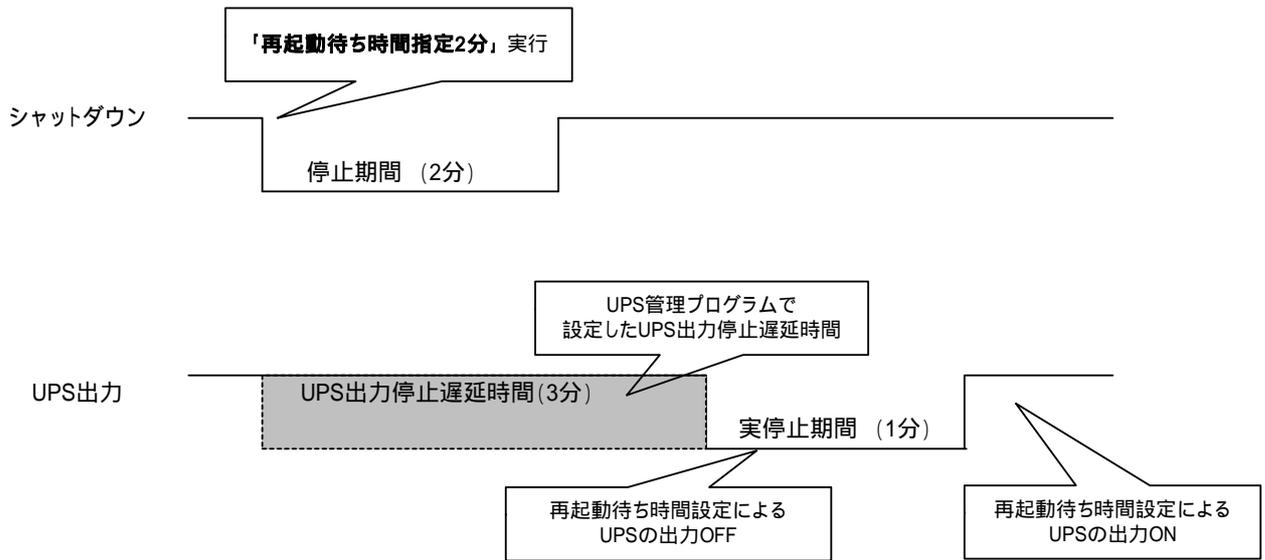


図 27 再起動待ち時間指定実行 (停止時間 < 出力停止遅延時間 の場合)

3.3.4. 特殊操作

UPS の機能設定や、UPS 内に記録されているデータの読み出し等の操作を行います。

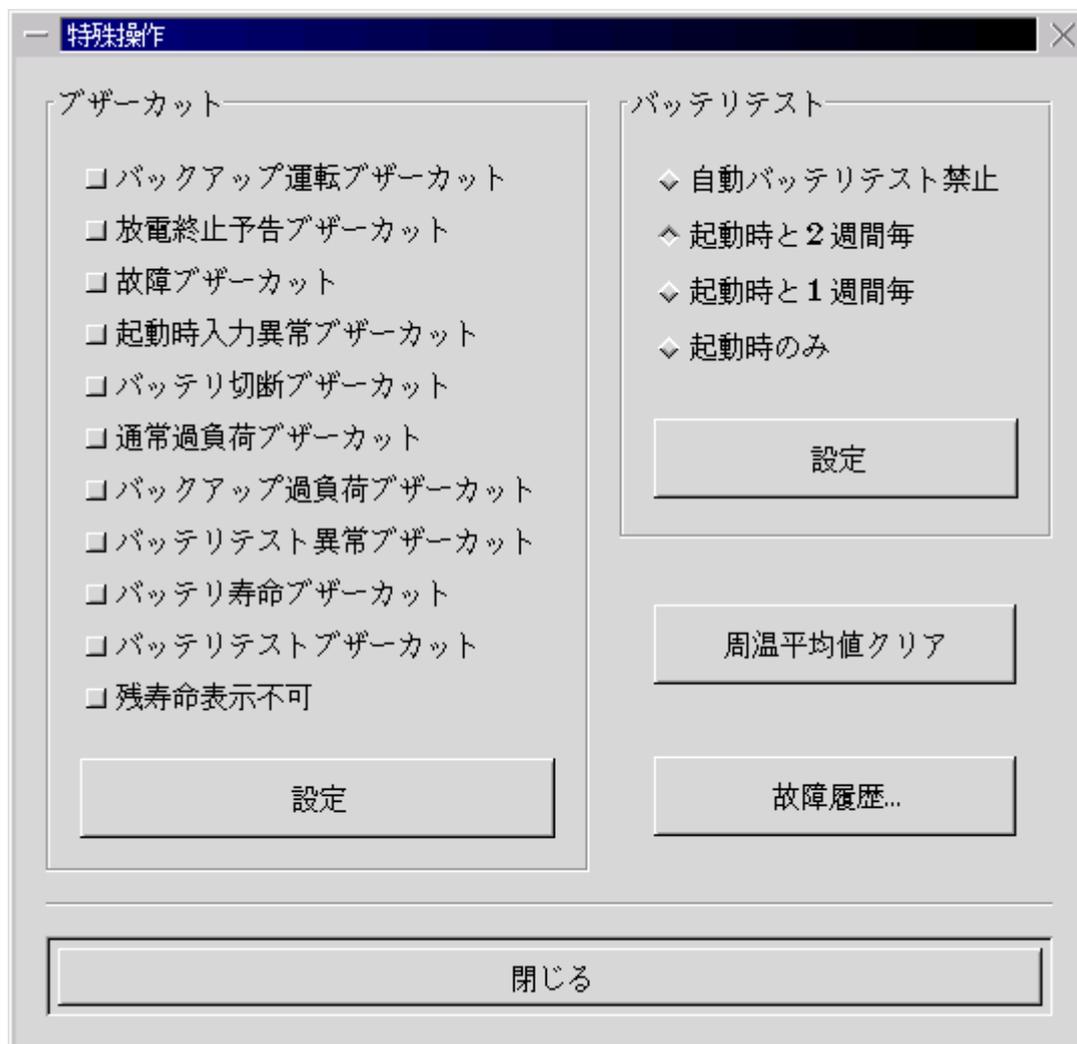


図 28 特殊操作ウィンドウ

バッテリーテスト設定

UPS が自動的に行うバッテリーテストに関する設定を行います。チェックボックスがチェックされているのが、現在の設定値です。初期値は「起動時と2週間毎」に設定されています。設定変更を行うには、設定項目のボタンをクリックし、設定ボタンを押下してください。正しく設定変更が行われると、変更後のチェックボックスがチェックされます。

表 7 バッテリーテスト設定一覧表

	項目名	内容
1	自動バッテリーテスト禁止	自動バッテリーテストを禁止する
2	起動時と2週間毎	起動時と2週間毎に自動バッテリーテストを実施する
3	起動時と1週間毎	起動時と1週間毎に自動バッテリーテストを実施する
4	起動時のみ	起動時のみに自動バッテリーテストを実施する

周温平均値クリア

ボタンをクリックすると、バッテリー周温平均値及び平均値算出日数がクリアされます。

ブザーカット設定

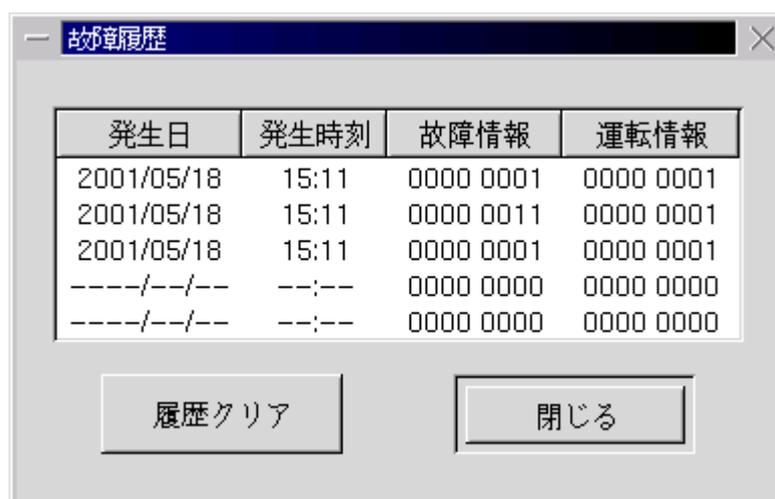
UPS のブザーカットに関する設定を行います。該当する項目横のチェックボックスがチェックされているものは、現在ブザーカットが設定されています。設定変更を行うには、設定項目のボタンをクリックし、「設定」ボタンを押下してください。正しく設定変更が行われると、変更後の項目のチェックボックスがチェックされ(ブザーカット)、あるいは通常表示(ブザー鳴動)されます。

表 8 ブザーカット設定

	項目	内容
1	バックアップ運転ブザーカット	バックアップ中ブザーカット
2	放電停止予告ブザーカット	電圧低下発生時ブザーカット
3	故障ブザーカット	故障発生時ブザーカット
4	起動時入力異常ブザーカット	起動時入力異常時ブザーカット
5	バッテリー切断ブザーカット	バッテリー切断時ブザーカット
6	通常過負荷ブザーカット	通常過負荷時ブザーカット
7	バックアップ過負荷ブザーカット	バックアップ過負荷時ブザーカット
8	バッテリーテスト異常ブザーカット	起動時のみに自動バッテリーテストを実施する
9	バッテリー寿命ブザーカット	バッテリーテスト NG 発生時ブザーカット
10	バッテリーテストブザーカット	バッテリー寿命ブザーカット
11	残寿命表示負荷	バッテリー残寿命減算処理禁止

故障履歴

装置に故障が発生したとき、UPS 内に記録される故障履歴データの読み出し及びクリアを行います。「故障履歴の読み出し」ボタンを押すと、UPS 内部の故障履歴を読み出して、一覧に表示します。履歴データは故障発生順に 0 番から設定され、履歴数が 5 つを超えると、5 番目のデータが破棄されて新しいデータが上書きされます。表示フォーマットは、発生日、発生時刻、故障情報、運転情報です。「履歴クリア」ボタンを押すと、現在 UPS に記録されている全ての故障履歴データを消去します。



発生日	発生時刻	故障情報	運転情報
2001/05/18	15:11	0000 0001	0000 0001
2001/05/18	15:11	0000 0011	0000 0001
2001/05/18	15:11	0000 0001	0000 0001
----/--/--	--:--	0000 0000	0000 0000
----/--/--	--:--	0000 0000	0000 0000

図 29 故障履歴ウィンドウ

3.4. スケジューラ

メニュー・バーの「スケジュール」をクリックすると、プルダウン・メニューが表示されます。

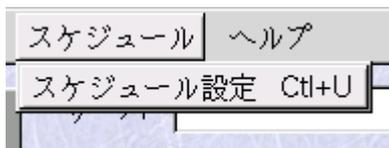


図 30 スケジュール設定メニュー

「スケジュール設定」を選択して、サーバの起動/停止のスケジュール設定を行います。操作方法については、「第 6 章スケジューラ」を参照して下さい。

3.5. ヘルプメニュー

メニュー・バーの「ヘルプ」をクリックすると、プルダウン・メニューが表示されます。

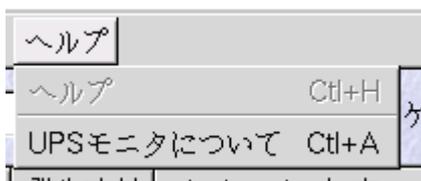


図 31 ヘルプメニュー

3.5.1. ヘルプ

NetpowerView F のヘルプを表示します。

注1) ヘルプを使用するためには Netscape Navigator または Mozilla がインストールされている必要があります。インストールされていない場合はヘルプが表示されません。その場合は、Netscape Navigator または Mozilla をインストールして下さい。またデフォルトの設定では Netscape Navigator を使用します。Mozilla を使用してヘルプを表示するには“3.2.1動作環境設定”を参照して下さい。

3.5.2. UPSモニタについて

UPS モニタプログラムのバージョン情報を表示します。

第4章 ツール・バー

ツール・バーから実行する各機能について説明します。
各ツールはファイル・メニューの各項目に対応しています。

4.1. 接続



ファイル・メニューの「接続」と同じ機能であり、UPS 管理プログラムと接続を行います。

4.2. 切断



ファイル・メニューの「切断」と同じ機能であり、UPS 管理プログラムとの接続を切断します。

4.3. サーバ検索



ファイル・メニューの「サーバ検索」と同じ機能であり、現在動作している UPS 管理プログラムを検索します。

4.4. 再検索



ファイル・メニューの「再検索」と同じ機能であり、UPS 管理プログラムと接続している場合に、再度検索を行います。

4.5. イベントログ



ファイル・メニューの「イベントログ」と同じ機能であり、イベントログの読み込みを行います。

4.6. データログ



ファイル・メニューの「データログ」と同じ機能であり、データログの読み込みを行います。

4.7. 動作環境設定



設定・メニューの「動作環境設定」と同じ機能であり、動作環境の設定を行います。

4.8. コマンド実行



機能・メニューの「コマンド実行」と同じ機能であり、コマンドの実行を行います。

4.9. シャットダウン



機能・メニューの「シャットダウン」と同じ機能であり、UPS の出力停止を行います。

4.10. 特殊操作



機能・メニューの「特殊操作」と同じ機能であり、特殊操作を行います。

4.11. スケジュール設定



スケジュール・メニューの「スケジュール設定」と同じ機能であり、スケジュール設定を行います。

4.12. ヘルプ



ヘルプ・メニューの「ヘルプ」と同じ機能であり、ヘルプ画面を表示します。

4.13. 終了



ファイル・メニューの「終了」と同じ機能であり、UPS モニタプログラムを終了します。

第5章 ログ・ファイル

NetpowerView F の UPS 管理プログラムは、ある一定周期で状態値を記録するデータ・ログ・ファイルと、イベント発生時にそのイベント名を記録するイベント・ログ・ファイルの2種類のログ・ファイルを作成します。

5.1. ログ・ファイルの設定

ログ・ファイルに関する設定は、UPS 管理プログラム構成画面で行ってください。

5.2. イベント・ログ・ファイル

イベント・ログ・ファイルには、UPS 管理プログラムが UPS を監視中に発生したイベントが記録されます。1回のイベントがログ・ファイルの1行に対応し、各項目は全てカンマで区切られた CSV 形式となっています。記録される項目は、イベント発生日付、発生時刻、イベント名です。イベント名はイベント・リスト・ウィンドウに表示されるものと同一です。

イベント・ログ・ファイルの記録例

20/06/2002,09:24:28,UPS 管理プログラム開始.

20/06/2002,09:25:08,UPS コマンド: バッテリテスト.

20/06/2002,09:25:17,UPS 結果: バッテリテスト 正常.

5.3. イベント・ログ・ファイル読み込み

UPS 管理プログラムがサーバのローカルディスクに作成しているイベント・ログ・ファイルを、UPS モニタリングプログラムを実行している環境にコピーし、表示します。

イベント・ログ・ファイル読み込みでサーバからコピーしたログ・ファイルは、一時ファイル /tmp/eventlog.csv に保存されます。

5.4. データ・ログ・ファイル

UPS の状態値が一定周期で記録されるデータ・ログ・ファイルには、以下の項目が記録されます。1回の記録がログ・ファイルの1行に対応し、各項目は全てカンマで区切られた CSV 形式となっています。このため、このログ・ファイルを「KSpread」や「MS-Excel」等のアプリケーションソフトで処理することにより、データの解析を行ったり、グラフを表示させたりすることが出来ます。

表 9 データログ表示内容一覧

	項目名	単位
1	ロギング日付	日/月/年(西暦)
2	ロギング時刻	時:分:秒(24時間制)
3	入力電圧	V
4	入力周波数	Hz
5	入力電力	KW
6	出力電圧	V
7	出力周波数	Hz
8	負荷率	%
9	バッテリー電圧	V
10	バッテリー周温	
11	バッテリー容量	%

データ・ログ・ファイルの記録例

20/06/2002,11:05:02,100.00,60.00,0.00,100.00,60.00,0.00,48.00,25.00,80.00

20/06/2002,11:10:09,100.00,60.00,0.00,100.00,60.00,0.00,48.00,25.00,80.00

20/06/2002,11:15:15,100.00,60.00,0.00,100.00,60.00,0.00,48.00,25.00,80.00

5.5. データ・ログ・ファイル読み込み

UPS 管理プログラムがサーバのローカルディスクに作成しているデータ・ログ・ファイルを、UPS モニタプログラムを実行している環境にコピーし、表示します。

データ・ログ・ファイル読み込みでサーバからコピーしたログ・ファイルは、一時ファイル /tmp/datalog.csv に保存されます。

第6章 スケジューラ

6.1. スケジュール動作

スケジューラを使用することによって、UPS のスケジュール運転が可能となります。
スケジュール運転を行う際には以下の注意点があります。

- 設定したスケジュールは設定時刻になると **UPS 管理プログラム**が実行します。

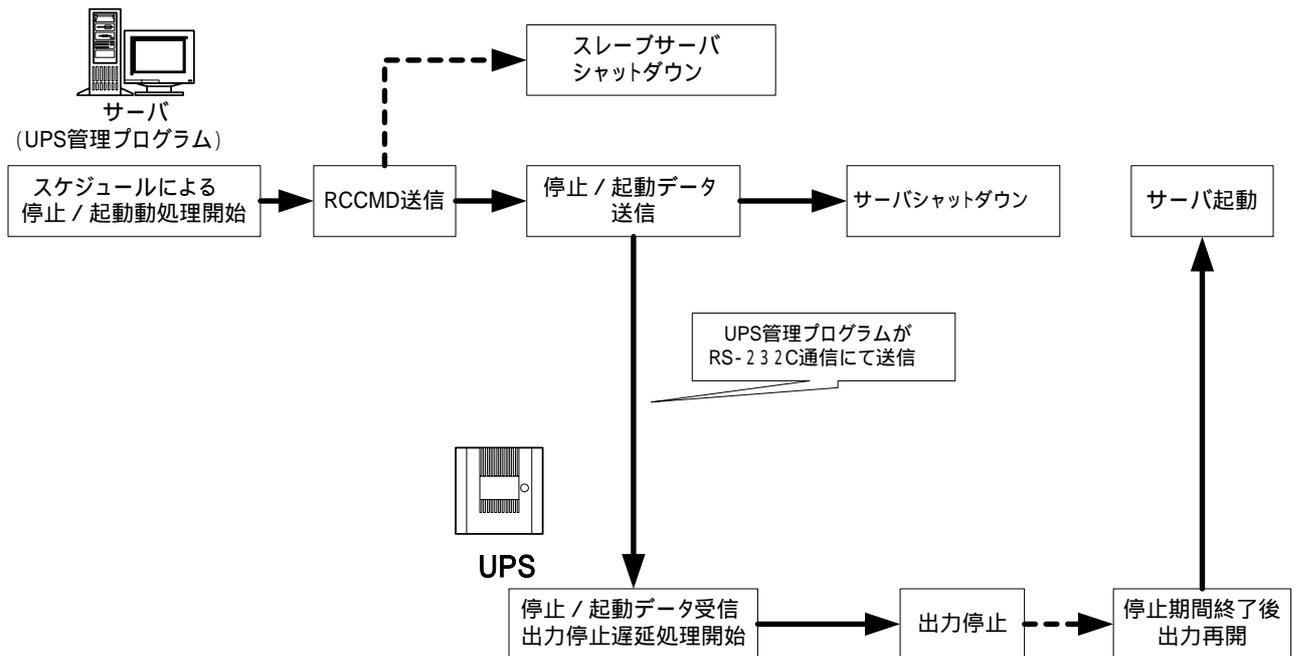


図 32 スケジュール停止/再起動の流れ

UPS 管理プログラムが動作しているサーバを**手動でシャットダウン**した場合、UPS の出力が ON・OFF に関わらず、スケジュールは実行されず設定した起動時刻を経過してもサーバは起動しません。
(スケジュール運転は UPS が開始するものではなく、UPS 管理プログラムがスケジュール実行時刻になると UPS に停止/起動時間を送信し、UPS が停止・再起動を行います)

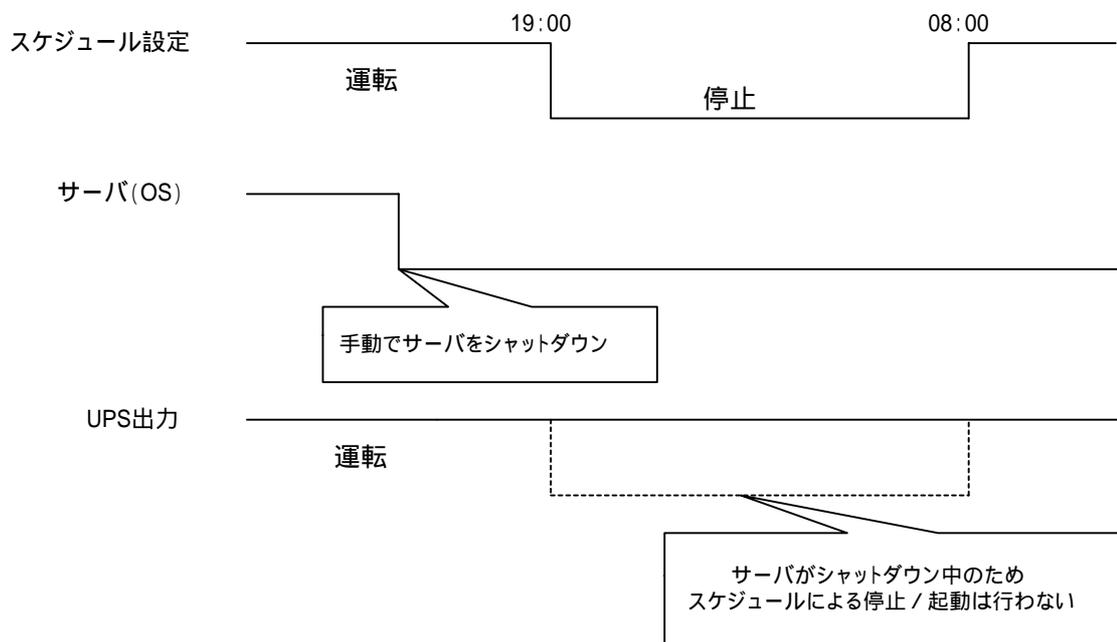


図 33 手動でサーバをシャットダウン後のスケジュール動作

- スケジュール設定後に UPS 管理プログラムが動作しているサーバの時刻を変更すると、スケジュールが実行されない場合があります。UPS 管理プログラムはスケジューラで設定された時刻に停止 / 起動の処理を開始するため、UPS 管理プログラムが動作しているサーバの現在時刻を手動で変更した場合は再度スケジュールの設定をおこなってください。
同様にタイムサーバで時刻同期するように構成されたマシン上で、UPS 管理プログラムを使用している場合において同期前と同期後の時間差が 24 時間以上である場合は再度スケジュールの設定をおこなってください。

[スケジュール再設定方法]

スケジュールの再設定はスケジュール画面を呼び出し、そのまま「設定」ボタンを押すことによって自動で最新のスケジュールに更新されます。

6.2. スケジューラ画面の呼び出し

スケジュールメニューとアイコン

メニューバーの「スケジュール」を押し、「スケジュール設定」を選択します

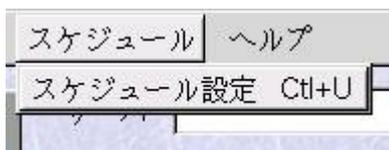


図 34 スケジュール設定メニュー

またはアイコンからスケジュール設定のアイコンを選択します。



図 35 スケジュール設定のアイコン

パスワードの入力

スケジュールメニューから「スケジュール設定」を選択すると、パスワード入力画面が表示されます。



図 36 パスワードウィンドウ

スケジュール設定画面の表示

パスワードを入力し、「了解」ボタンを押下すると、スケジュール設定画面が表示されます。

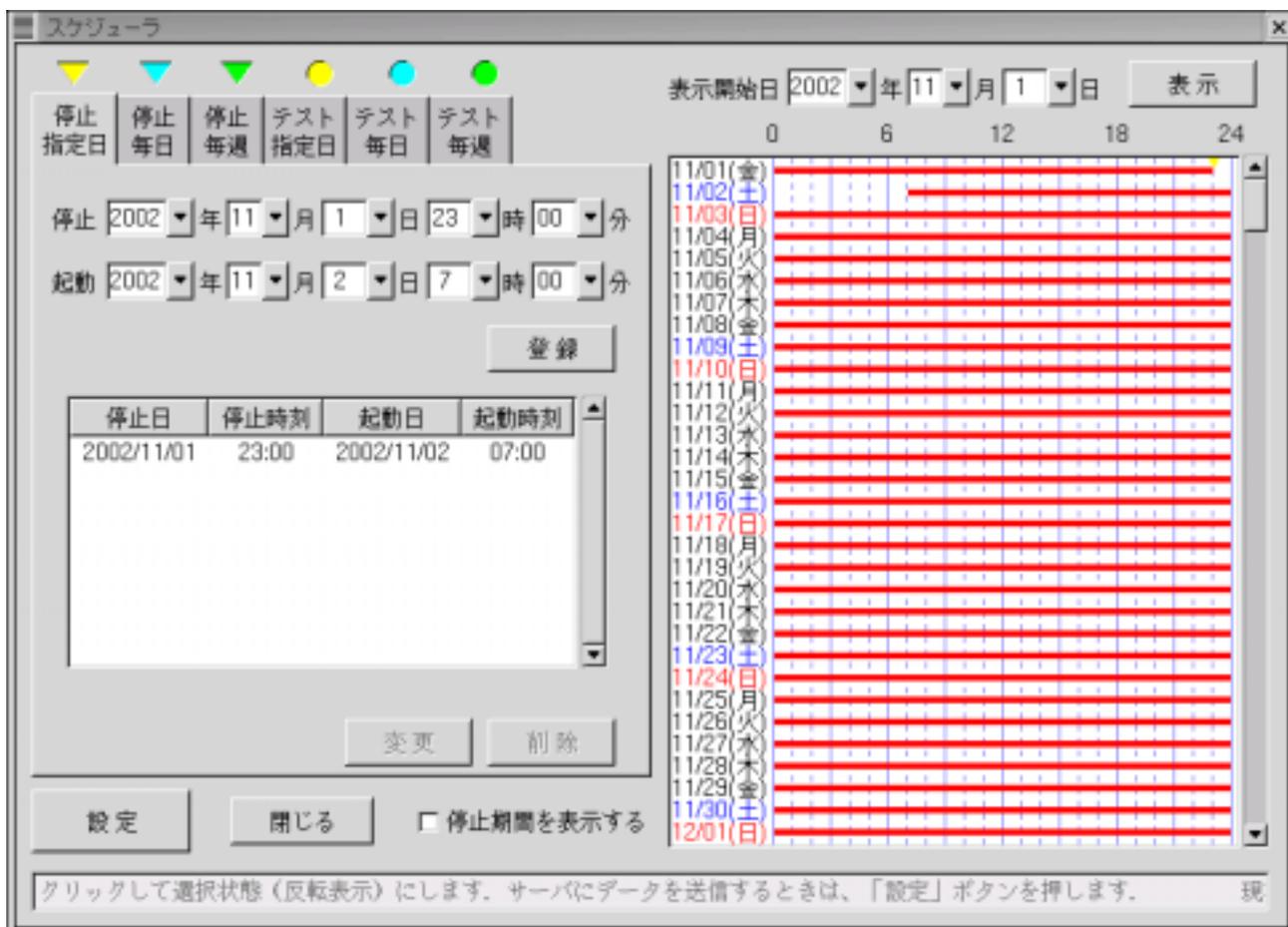


図 37 スケジューラ画面

注1)スケジュールによるシャットダウンを開始する前にUPS管理プログラムを動作させるサーバとUPSモニタプログラムを動作させているサーバのタイムゾーンの設定を確認してください。タイムゾーンの設定は下記の場所に合わせる必要があります。

タイムゾーン: アジア/東京

Red Hat Linux 9 では timeconfig のコマンドを実行することによって現在のタイムゾーンの設定を確認できます。

タイムゾーンの確認と設定方法の詳細は Linux のマニュアルを参照して下さい。

6.3. 指定日のシャットダウンスケジュール

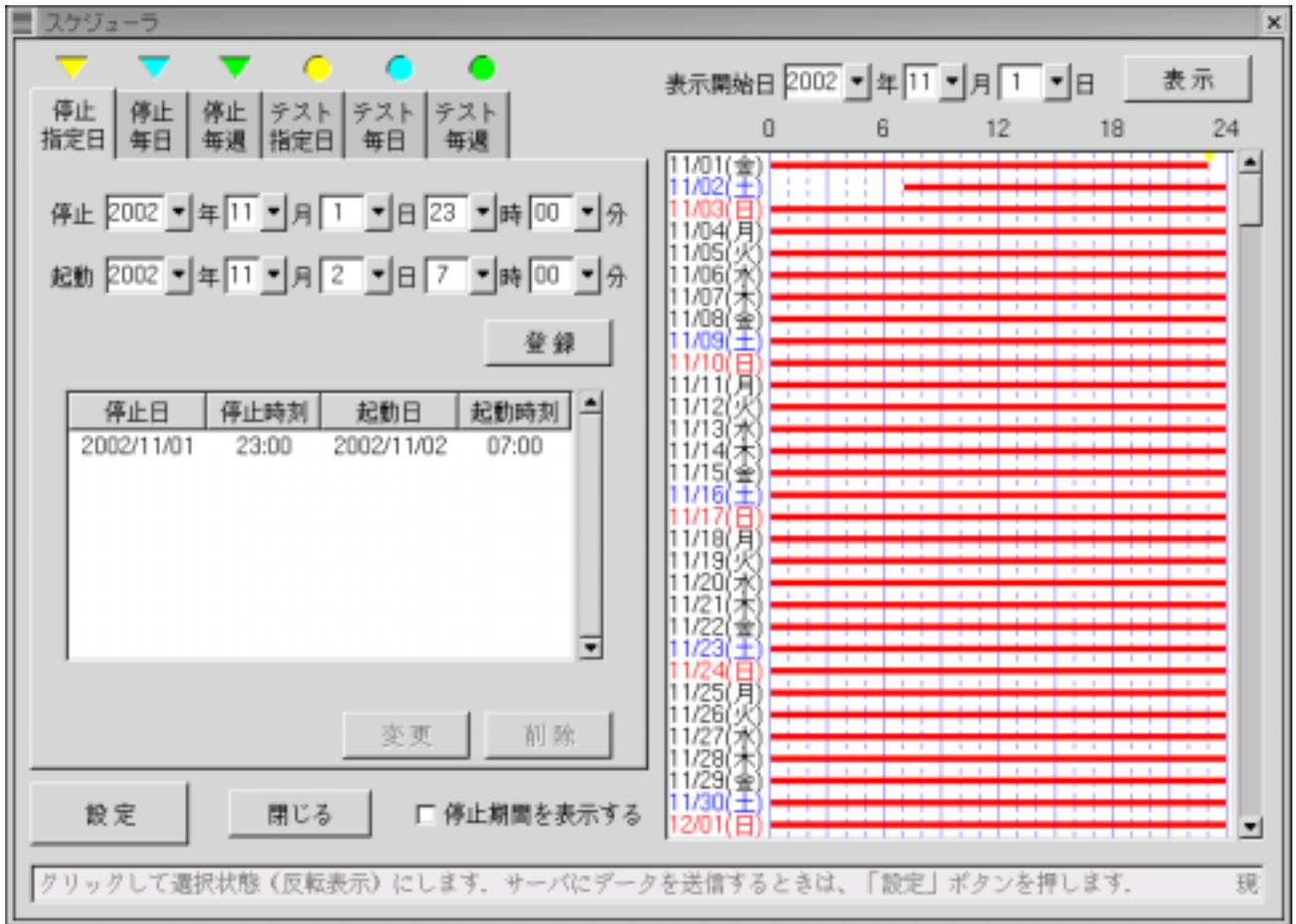


図 38 指定日のスケジュール

「停止指定日」タブをクリックすると、指定日のシャットダウンスケジュール設定画面が「新規登録モード」で表示されます。「新規登録モード」では新たに指定日のシャットダウンとリストアを設定します。

指定日のスケジュールデータは30件まで設定可能です。

既存のスケジュールを変更する場合にはデータリストに登録されているデータを選択して「削除 / 変更モード」に移行して変更を行います。

「停止年」プルダウン

当年を始めとして、5年分の年リストより、停止年を選択します。

「停止月」プルダウン

月リストより、停止月を選択します。

「停止日」プルダウン

日リストより、停止日を選択します。

「停止時」プルダウン

時リストより、停止時を選択します。

「停止分」プルダウン

分リストより、停止分を選択します。

「起動年」プルダウン

当年を始めとして、5年分の年リストより、起動年を選択します。

「起動月」プルダウン

月リストより、起動月を選択します。

「起動日」プルダウン

日リストより、起動日を選択します。

「起動時」プルダウン

時リストより、起動時を選択します。

「起動分」プルダウン

分リストより、起動分を選択します。

「登録」ボタン

日付とシャットダウン時刻、停止時間の入力後、このボタンを押下することによって設定したデータが、下のデータリストに表示されます。

このボタンは「削除 / 変更モード」では使用できません。

データリスト

現在設定されている指定日のスケジュールが表示されます。

設定済みのデータを選択(反転表示状態)すると、「削除 / 変更モード」に移行します。

「削除 / 変更モード」から「新規登録モード」に戻るには、選択されているデータを再度選択(非選択状態に)します。

「削除 / 変更モード」では選択したデータを変更することができます。

変更は ~ の停止時刻または起動時刻を変更し、 の「変更」ボタンでデータの変更を行います。

「変更」ボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

削除は の「削除」ボタンから削除を行います。

「変更」ボタン

「削除 / 変更モード」で ~ の停止時刻または起動時刻を変更したのちに、このボタンでデータの変更を行います。このボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「削除」ボタン

「削除 / 変更モード」でこのボタンを押下すると、選択されたデータを削除することができます。このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「設定」ボタン

このボタンを押下すると、データリストのデータが接続しているUPS管理プログラムに対して送信されます。

「閉じる」ボタン

このボタンを押下すると、スケジュールデータに変更がある場合はスケジューラ終了確認のポップアップウィンドウが表示されます。「了解」ボタンを選択するとスケジューラは終了し、スケジュールデータは更新されません。「取消」ボタンを選択するとスケジューラ画面に戻ります。

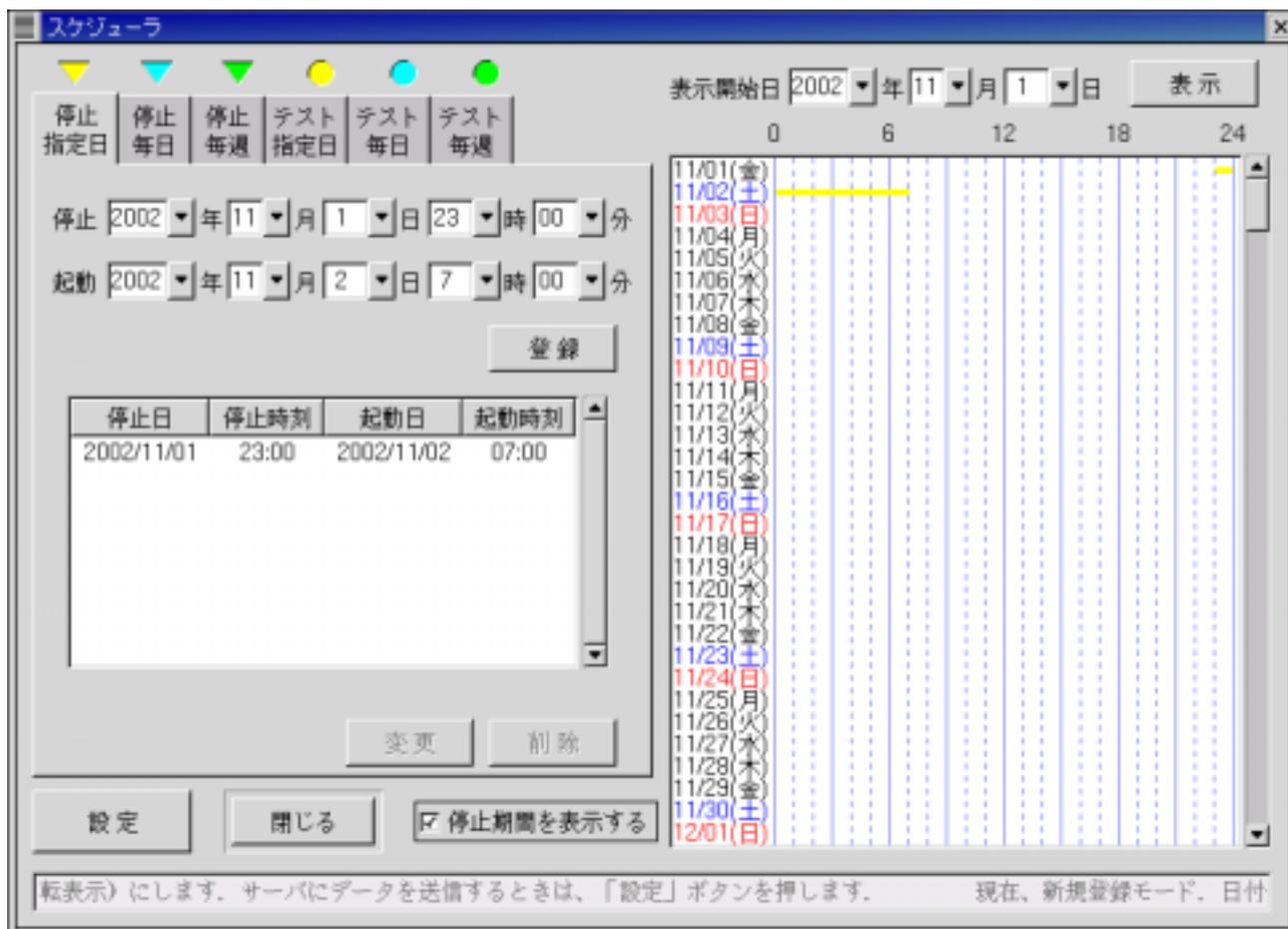


図 39 停止期間を表示した場合の表示

「停止期間を表示する」チェックボックス

このチェックボックスをクリックすると、UPS の停止 / 起動の表示が反転します。

初期状態では OFF となっていて、UPS の起動時がバーチャートで表示されています。

このチェックボックスを ON とすれば、UPS の停止時が色分けされて表示されます。

シャットダウンの種類	表示色
指定日のシャットダウン	黄色
毎日のシャットダウン	水色
毎週のシャットダウン	緑色

「表示開始年」プルダウン

当年を始めとして、5年分の年リストより、バーチャートの表示開始日の年を選択します。

「表示開始月」プルダウン

月リストより、バーチャートの表示開始日の月を選択します。

「表示開始日」プルダウン

日リストより、バーチャートの表示開始日の日を選択します。

「表示」ボタン

設定された表示開始日を先頭とするバーチャートが表示されます。

6.4. 毎日のシャットダウンスケジュール

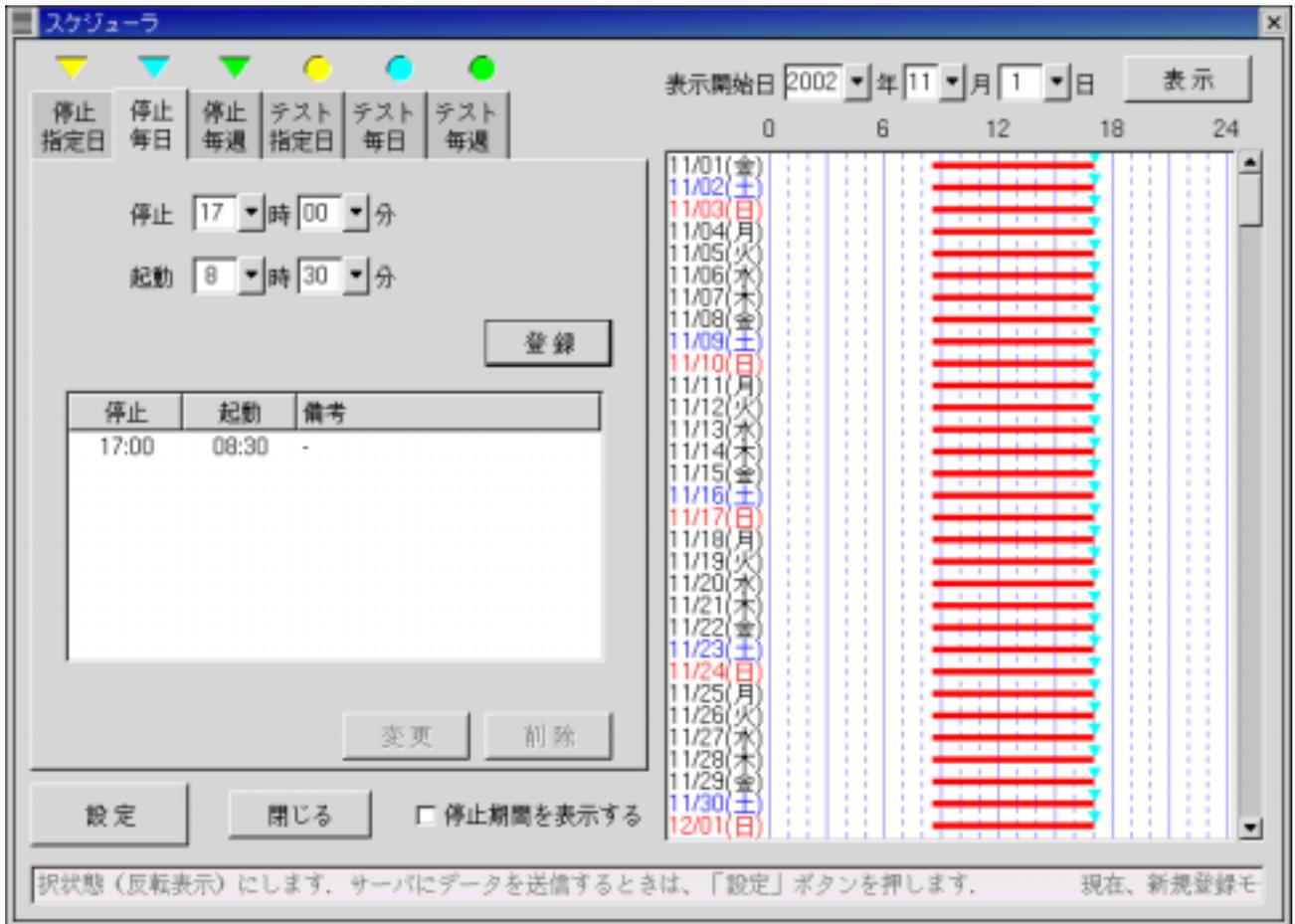


図 40 毎日のスケジュール

「停止毎日」タブをクリックすると、毎日のシャットダウンスケジュール設定画面が「新規登録モード」で表示されます。

「新規登録モード」では毎日のシャットダウンとリストアを新たに設定します。

毎日のスケジュールデータは8件まで設定可能です。

既存のスケジュールを変更する場合にはデータリストに登録されているデータを選択して「削除 / 変更モード」に移行して変更を行います。

「停止時」プルダウン

時リストより毎日の停止時を選択します。

「停止分」プルダウン

分リストより毎日の停止分を選択します。

「起動時」プルダウン

時リストより毎日の起動時を選択します。

「起動分」プルダウン

分リストより毎日の起動分を選択します。

「登録」ボタン

停止時刻、起動時刻の入力後、このボタンを押下することによって設定したデータが、下のデータリストに表示されます。

このボタンは「削除 / 変更モード」では使用できません。

データリスト

現在設定されている毎日のスケジュールが表示されます。

設定済みのデータを選択(反転表示状態)すると、「削除 / 変更モード」に移行します。

「削除 / 変更モード」から「新規登録モード」に戻るには、選択されているデータを再度選択(非選択状態に)します。

「削除 / 変更モード」では選択したデータを変更することができます。

変更は ~ の停止時刻または起動時刻を変更し、 の「変更」ボタンでデータの変更を行います。

「変更」ボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

削除は の「削除」ボタンから削除を行います。

「変更」ボタン

「削除 / 変更モード」で ~ の停止時刻または起動時刻を変更したのちに、このボタンでデータの変更を行います。このボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「削除」ボタン

「削除 / 変更モード」でこのボタンを押下すると、選択されたデータを削除することができます。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「設定」ボタン

このボタンを押下すると、データリストのデータが接続しているUPS管理プログラムに対して送信されます。

「閉じる」ボタン

このボタンを押下すると、スケジュールデータに変更がある場合はスケジュール終了確認のポップアップウィンドウが表示されます。「了解」ボタンを選択するとスケジュールは終了し、スケジュールデータは更新されません。「取消」ボタンを選択するとスケジュール画面に戻ります。

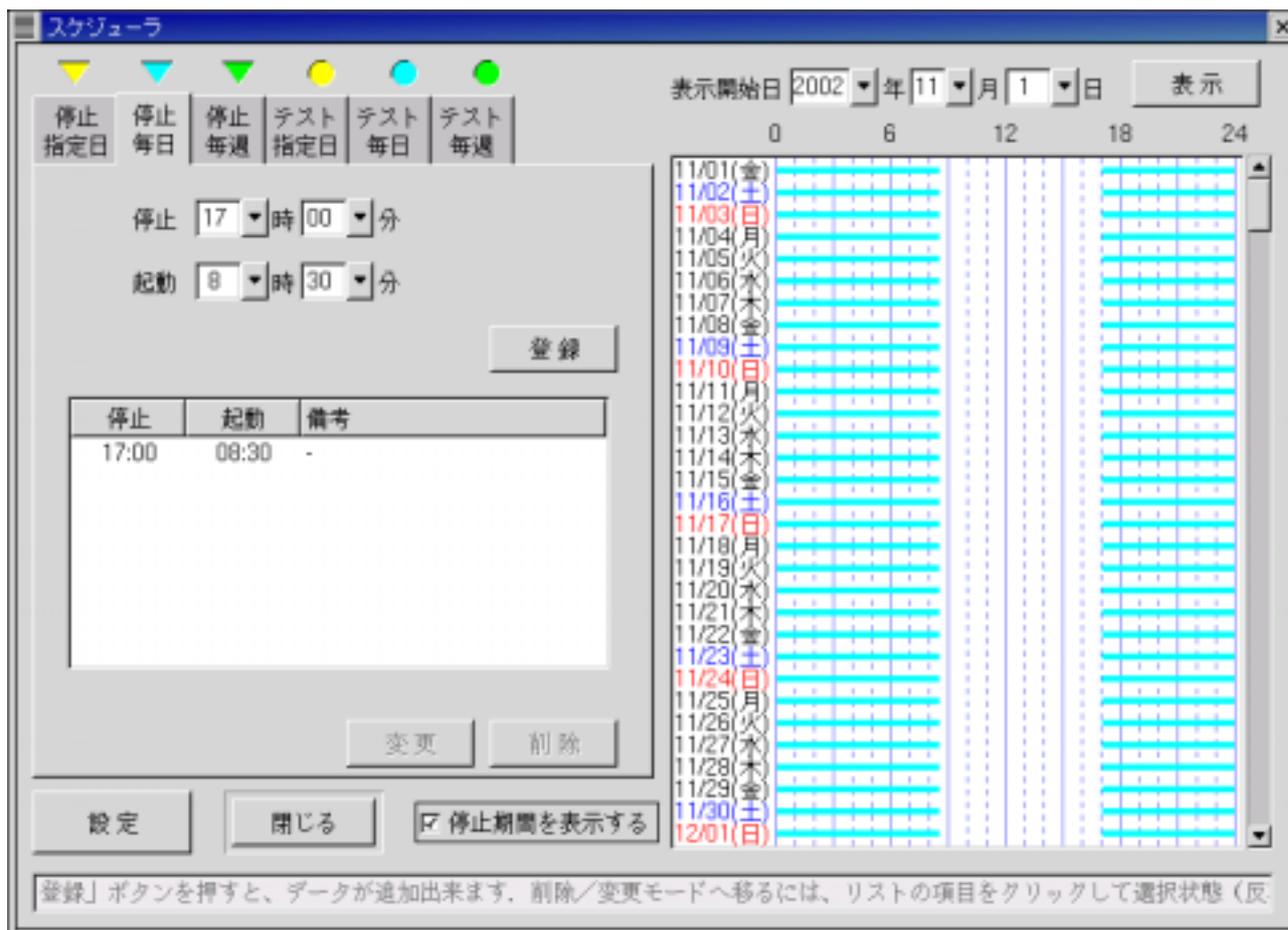


図 41 停止期間を表示した場合の表示

「停止期間を表示する」チェックボックス

このチェックボックスをクリックすると、UPS の停止/起動の表示が反転します。

初期状態では OFF となっていて、UPS の起動時がバーチャートで表示されています。

このチェックボックスを ON とすれば、UPS の停止時が色分けされて表示されます。

シャットダウンの種類	表示色
指定日のシャットダウン	黄色
毎日のシャットダウン	水色
毎週のシャットダウン	緑色

「表示開始年」プルダウン

当年を始めとして、5 年分の年リストより、バーチャートの表示開始日の年を選択します。

「表示開始月」プルダウン

月リストより、バーチャートの表示開始日の月を選択します。

「表示開始日」プルダウン

日リストより、バーチャートの表示開始日の日を選択します。

「表示」ボタン

設定された表示開始日を先頭とするバーチャートが表示されます。

6.5. 毎週のシャットダウンスケジュール

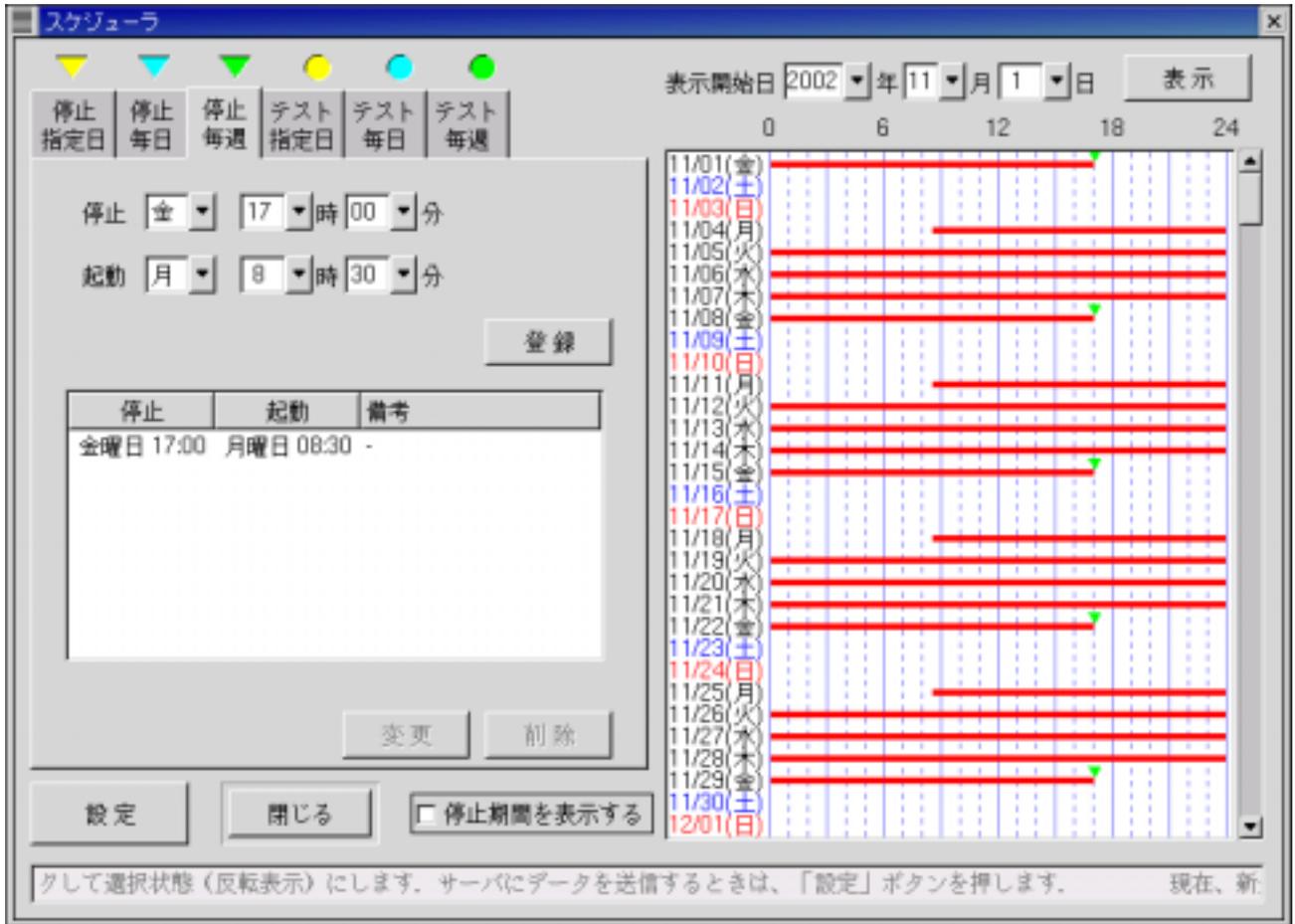


図 42 毎週のスケジュール

「停止毎週」タブをクリックすると、毎週のシャットダウンスケジュール設定画面が「新規登録モード」で表示されます

「新規登録モード」では毎週のシャットダウンとリストアを新たに設定します。

毎週のスケジュールデータは8件まで設定可能です。

既存のスケジュールを変更する場合にはデータリストに登録されているデータを選択して「削除 / 変更モード」に移行して変更を行います

「停止曜日」プルダウン

停止を行う曜日を選択します。

「停止時」プルダウン

停止時を選択します。

「停止分」プルダウン

停止分を選択します。

「起動曜日」プルダウン

起動を行う曜日を選択します。

「起動時」プルダウン

起動時を選択します。

「起動分」プルダウン

起動分を選択します。

「登録」ボタン

停止時刻、起動時刻の入力後、このボタンを押下することによって設定したデータが、下のデータリストに表示されます。

このボタンは「削除 / 変更モード」では使用できません。

データリスト。

現在設定されている毎週のスケジュールが表示されます。

設定済みのデータを選択(反転表示状態)すると、「削除 / 変更モード」に移行します。

「削除 / 変更モード」から「新規登録モード」に戻るには、選択されているデータを再度選択(非選択状態に)します。

「削除 / 変更モード」では選択したデータを変更することができます。

変更は ~ の停止時刻または起動時刻を変更し、 の「変更」ボタンでデータの変更を行います。

「変更」ボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

削除は の「削除」ボタンから削除を行います。

「変更」ボタン

「削除 / 変更モード」で ~ の停止時刻または起動時刻を変更したのちに、このボタンでデータの変更を行います。このボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「削除」ボタン

「削除 / 変更モード」でこのボタンを押下すると、選択されたデータを削除することができます。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「設定」ボタン

このボタンを押下すると、データリストのデータが接続しているUPS管理プログラムに対して送信されます。

「閉じる」ボタン

このボタンを押下すると、スケジュールデータに変更がある場合はスケジューラ終了確認のポップアップウィンドウが表示されます。「了解」ボタンを選択するとスケジューラは終了し、スケジュールデータは更新されません。「取消」ボタンを選択するとスケジューラ画面に戻ります。

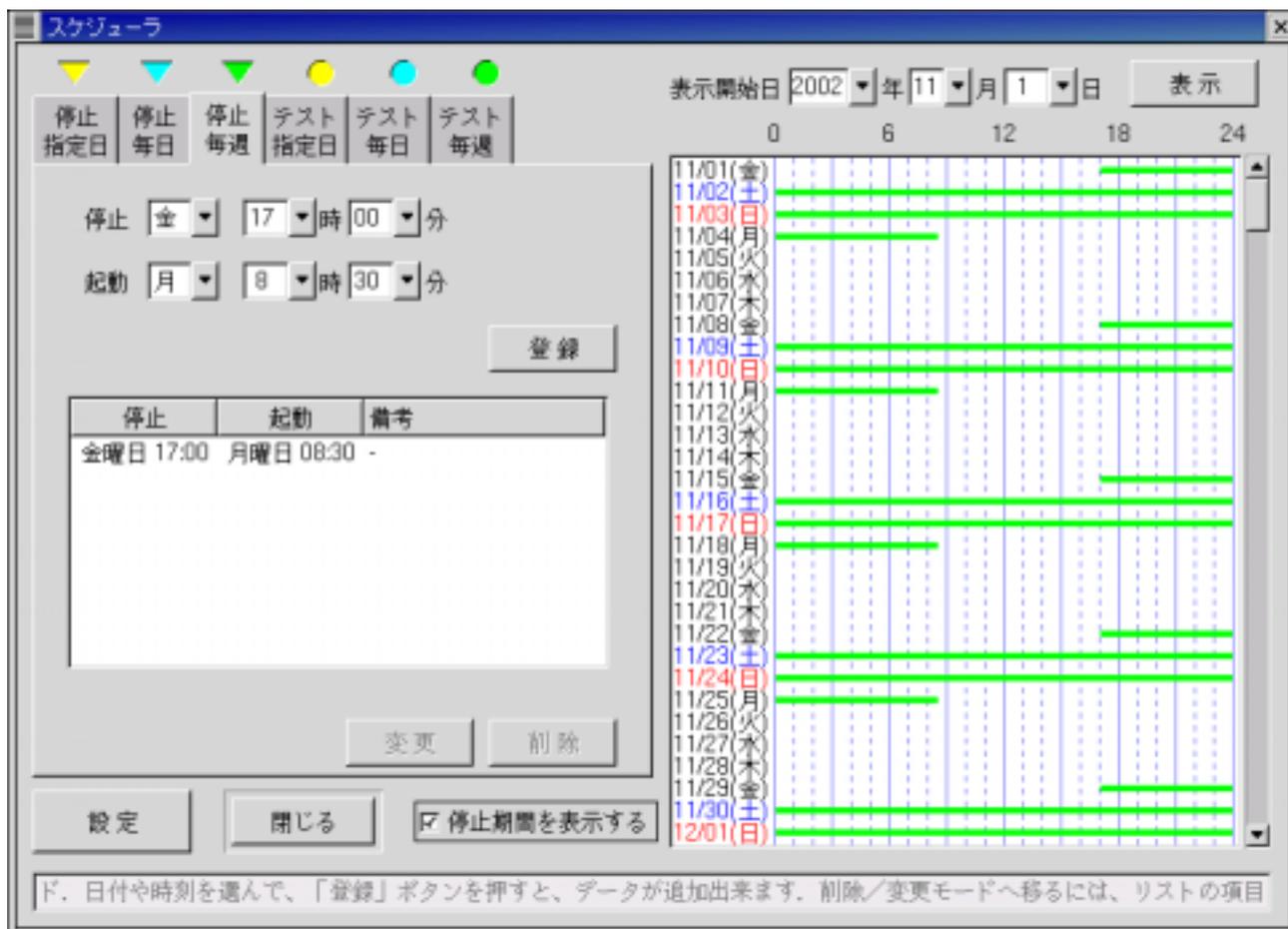


図 43 停止期間を表示した場合の表示

「停止期間を表示する」チェックボックス

このチェックボックスをクリックすると、UPS の停止/起動の表示が反転します。
 初期状態では OFF となっていて、UPS の起動時がバーチャートで表示されています。
 このチェックボックスを ON とすれば、UPS の停止時が色分けされて表示されます。

シャットダウンの種類	表示色
指定日のシャットダウン	黄色
毎日のシャットダウン	水色
毎週のシャットダウン	緑色

「表示開始年」プルダウン

当年を始めとして、5 年分の年リストより、バーチャートの表示開始日の年を選択します。

「表示開始月」プルダウン

月リストより、バーチャートの表示開始日の月を選択します。

「表示開始日」プルダウン

日リストより、バーチャートの表示開始日の日を選択します。

「表示」ボタン

設定された表示開始日を先頭とするバーチャートが表示されます。

6.6. 指定日のバッテリーテストスケジュール

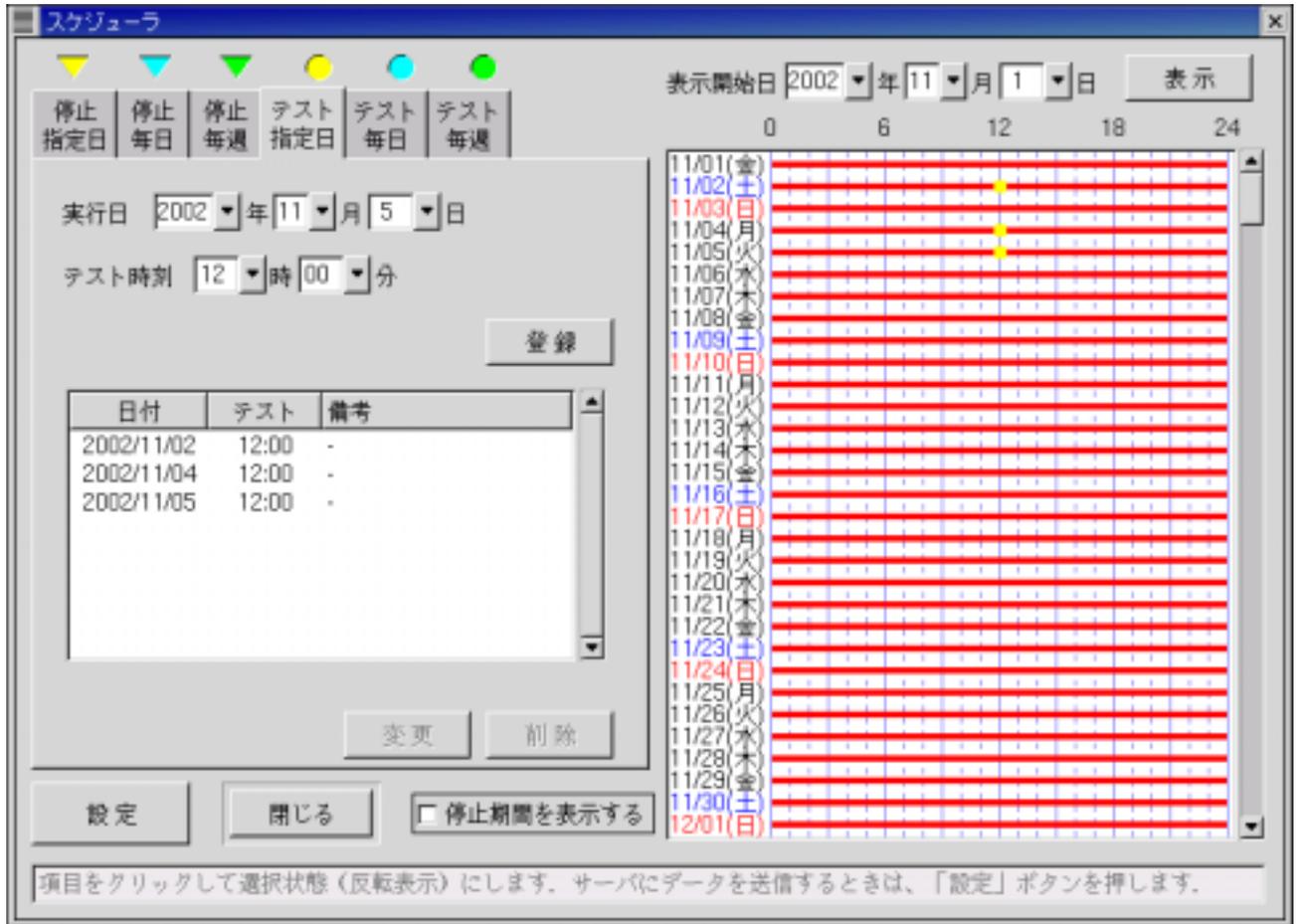


図 44 指定日のスケジュール

「テスト指定日」タブをクリックすると、指定日のバッテリーテストスケジュール設定画面が「新規登録モード」で表示されます。「新規登録モード」では新たに指定日のバッテリーテストスケジュールを設定します。指定日のスケジュールデータは30件まで設定可能です。既存のスケジュールを変更する場合にはデータリストに登録されているデータを選択して「削除 / 変更モード」に移行して変更を行います。

「実行年」プルダウン

当年を始めとして、5年分の年リストより、バッテリーテスト実行年を選択します。

「実行月」プルダウン

月リストより、バッテリーテスト実行月を選択します。

「実行日」プルダウン

日リストより、バッテリーテスト実行日を選択します。

「実行時」プルダウン

時リストより、バッテリーテスト実行時を選択します。

「実行分」プルダウン

分リストより、バッテリーテスト実行分を設定します。

「登録」ボタン

各データ設定の後、このボタンを押下することによって設定したバッテリースケジュールのデータが、下のデータリストに表示されます。

データリスト

現在設定されている指定日のバッテリーテストスケジュールが表示されます。

設定済みのデータを選択(反転表示状態)すると、「削除 / 変更モード」に移行します。

「削除 / 変更モード」から「新規登録モード」に戻るには、選択されているデータを再度選択(非選択状態に)します。

「削除 / 変更モード」では選択したデータを変更することができます。

変更は ~ の実行日またはテスト時刻を変更し、 の「変更」ボタンでデータの変更を行います。

「変更」ボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

削除は の「削除」ボタンから削除を行います。

「変更」ボタン

「削除 / 変更モード」で ~ の実行日またテスト時刻を変更したのちに、このボタンでデータの変更を行います。このボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「削除」ボタン

「削除 / 変更モード」でこのボタンを押下すると、選択されたデータを削除することができます。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「設定」ボタン

このボタンを押下すると、データリストのデータが接続しているUPS管理プログラムに対して送信されます。

「閉じる」ボタン

このボタンを押下すると、スケジュールデータに変更がある場合はスケジューラ終了確認のポップアップウィンドウが表示されます。「了解」ボタンを選択するとスケジューラは終了し、スケジュールデータは更新されません。「取消」ボタンを選択するとスケジューラ画面に戻ります。

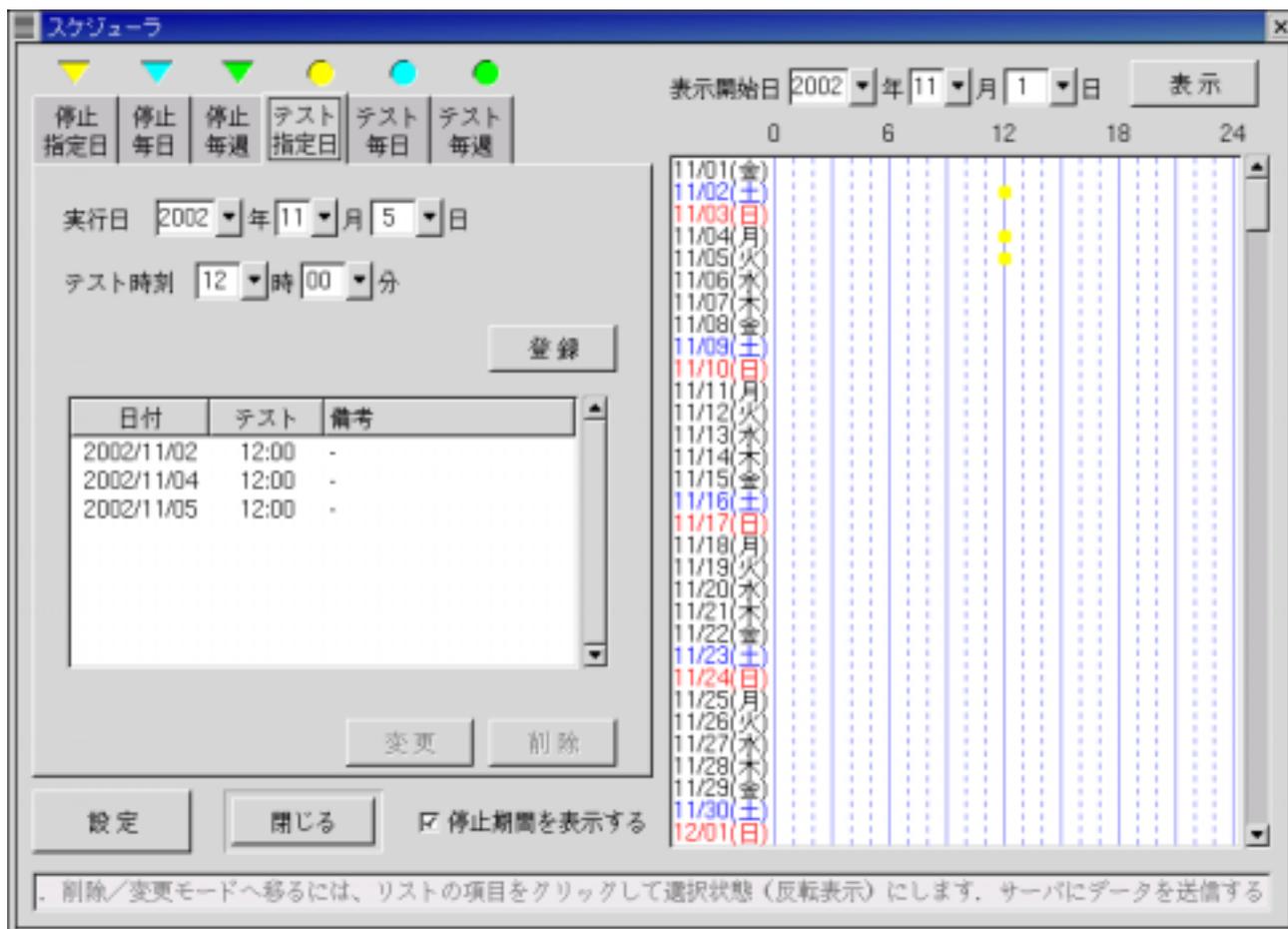


図 45 停止期間を表示した場合の表示

停止期間を表示する「チェックボックス

このチェックボックスをクリックすると、UPS の停止/起動の表示が反転します。

初期状態では OFF となっていて、UPS の起動時がバーチャートで表示されています。

このチェックボックスを ON とすれば、UPS の停止時が色分けされて表示されます。

シャットダウンの種類	表示色
指定日のシャットダウン	黄色
毎日のシャットダウン	水色
毎週のシャットダウン	緑色

「表示開始年」プルダウン

当年を始めとして、5年分の年リストより、バーチャートの表示開始日の年を選択します。

「表示開始月」プルダウン

月リストより、バーチャートの表示開始日の月を選択します。

「表示開始日」プルダウン

日リストより、バーチャートの表示開始日の日を選択します。

「表示」ボタン

設定された表示開始日を先頭とするバーチャートが表示されます。

6.7. 毎日のバッテリーテストスケジュール



図 46 毎日のバッテリーテスト

「テスト毎日」タブをクリックすると、毎日のバッテリーテストスケジュール設定画面が「新規登録モード」で表示されます。「新規登録モード」では新たに毎日のバッテリーテストスケジュールを設定します。毎日のスケジュールデータは8件まで設定可能です。既存のスケジュールを変更する場合にはデータリストに登録されているデータを選択して「削除/変更モード」に移行して変更を行います

「実行時」プルダウン

時リストより、バッテリーテスト実行時を選択します。

「実行分」プルダウン

分リストより、バッテリーテスト実行分を選択します。

「登録」ボタン

各データ設定の後、このボタンを押下することによって設定したバッテリスケジュールのデータが、下のデータリストに表示されます。

データリスト

現在設定されている毎日のバッテリテストスケジュールが表示されます。

設定済みのデータを選択(反転表示状態)すると、「削除/変更モード」に移行します。

「削除/変更モード」から「新規登録モード」に戻るには、選択されているデータを再度選択(非選択状態に)します。

「削除/変更モード」では選択したデータを変更することができます。

変更は ~ のテスト時刻を変更し、 の「変更」ボタンでデータの変更を行います。

「変更」ボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

削除は の「削除」ボタンから削除を行います。

「変更」ボタン

「削除/変更モード」で ~ のテスト時刻を変更したのちに、このボタンでデータの変更を行います。このボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「削除」ボタン

「削除/変更モード」でこのボタンを押下すると、選択されたデータを削除することができます。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「設定」ボタン

このボタンを押下すると、データリストのデータが接続しているUPS管理プログラムに対して送信されます。

「閉じる」ボタン

このボタンを押下すると、スケジュールデータに変更がある場合はスケジュール終了確認のポップアップウィンドウが表示されます。「了解」ボタンを選択するとスケジュールは終了し、スケジュールデータは更新されません。「取消」ボタンを選択するとスケジュール画面に戻ります。

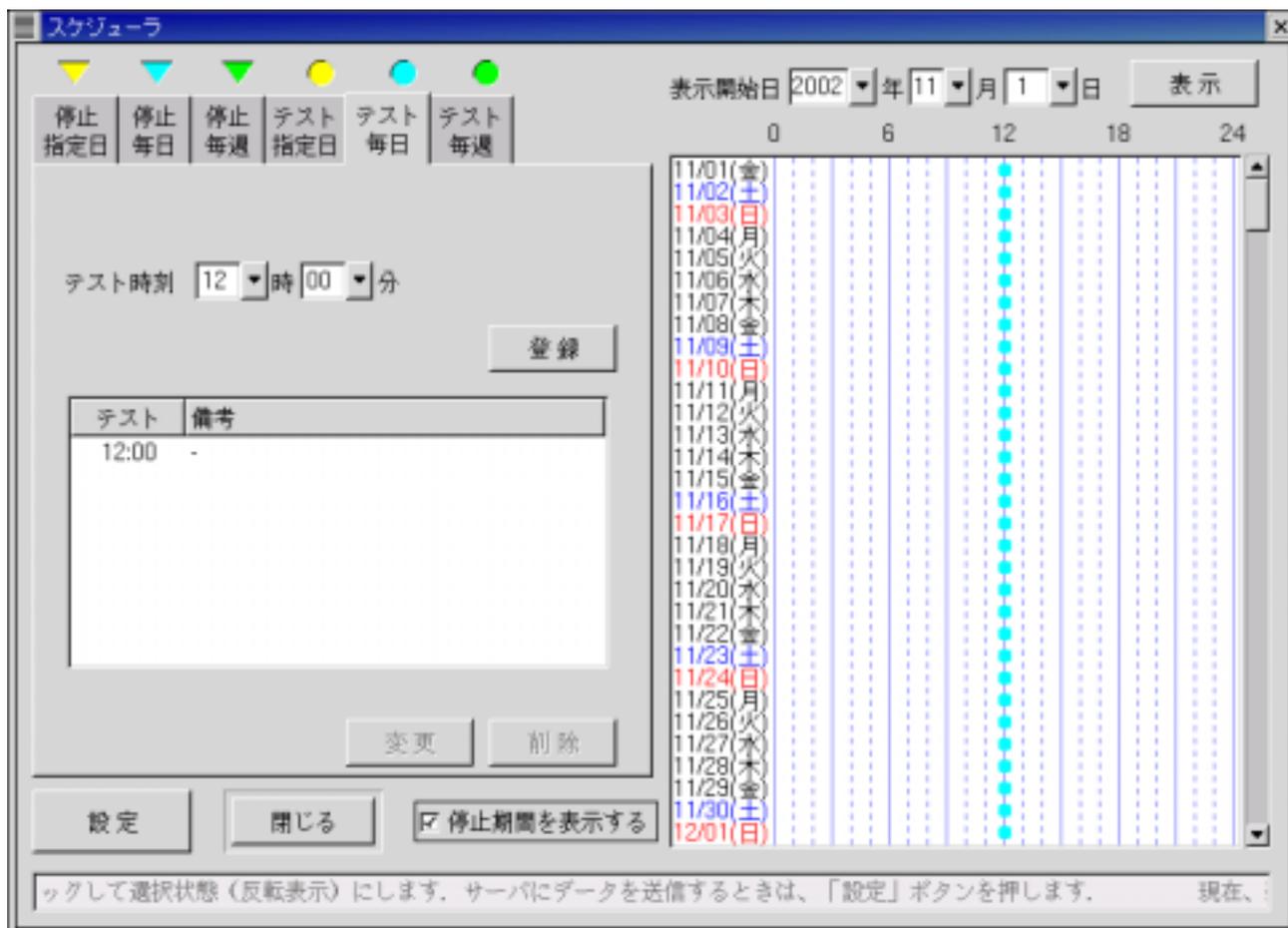


図 47 停止期間を表示した場合の表示

「停止期間を表示する」チェックボックス

このチェックボックスをクリックすると、UPS の停止/起動の表示が反転します。
 初期状態では OFF となっていて、UPS の起動時がバーチャートで表示されています。
 このチェックボックスを ON とすれば、UPS の停止時が色分けされて表示されます。

シャットダウンの種類	表示色
指定日のシャットダウン	黄色
毎日のシャットダウン	水色
毎週のシャットダウン	緑色

「表示開始年」プルダウン

当年を始めとして、5年分の年リストより、バーチャートの表示開始日の年を選択します。

「表示開始月」プルダウン

月リストより、バーチャートの表示開始日の月を選択します。

「表示開始日」プルダウン

日リストより、バーチャートの表示開始日の日を選択します。

「表示」ボタン

設定された表示開始日を先頭とするバーチャートが表示されます。

6.8. 毎週のバッテリーテストスケジュール

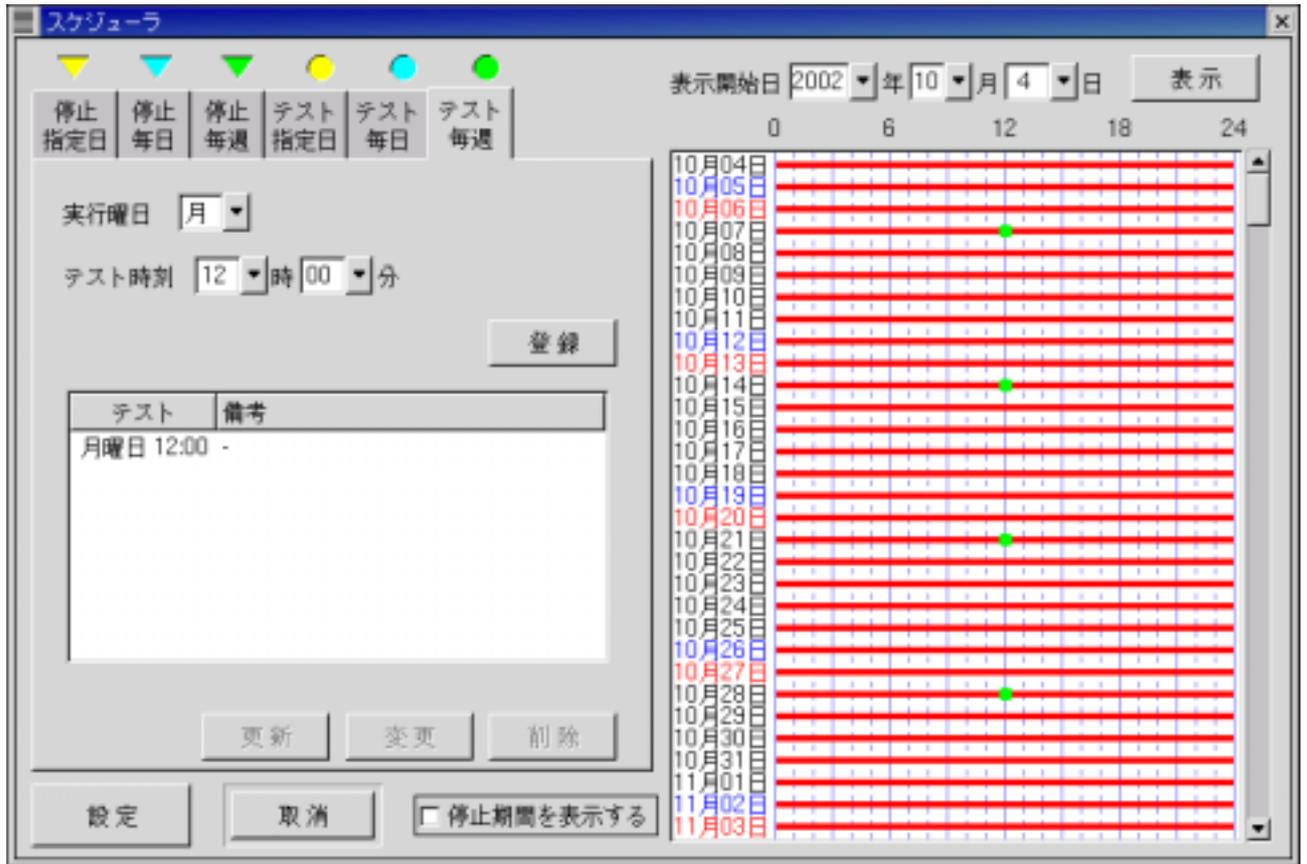


図 48 毎週のバッテリーテスト

「テスト毎週」タブをクリックすると、毎週のバッテリーテストスケジュール設定画面が「新規登録モード」で表示されます。「新規登録モード」では新たに毎週のバッテリーテストスケジュールを設定します。毎週のスケジュールデータは8件まで設定可能です。既存のスケジュールを変更する場合にはデータリストに登録されているデータを選択して「削除 / 変更モード」に移行して変更を行います。

「実行曜日」プルダウン

バッテリーテストを行う曜日を選択します。

「実行時」プルダウン

バッテリーテスト実行時を選択します。

「実行分」プルダウン

バッテリーテスト実行分を選択します

「登録」ボタン

各データ設定の後、このボタンを押下することによって設定したバッテリスケジュールのデータが、下のデータリストに表示されます。

データリスト

現在設定されている毎週のバッテリテストスケジュールが表示されます。

設定済みのデータを選択(反転表示状態)すると、「削除/変更モード」に移行します。

「削除/変更モード」から「新規登録モード」に戻るには、選択されているデータを再度選択(非選択状態に)します。

「削除/変更モード」では選択したデータを変更することができます。

変更は ~ の実行曜日またはテスト時刻を変更し、 の「変更」ボタンでデータの変更を行います。

「変更」ボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

削除は の「削除」ボタンから削除を行います。

「変更」ボタン

「削除/変更モード」で ~ の実行日またテスト時刻を変更したのちに、このボタンでデータの変更を行います。このボタンを押すと「新規登録モード」に戻ります。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「削除」ボタン

「削除/変更モード」でこのボタンを押下すると、選択されたデータを削除することができます。

このボタンは「新規登録モード」では使用できません。

「設定」ボタン

このボタンを押下すると、データリストのデータが接続しているUPS管理プログラムに対して送信されます。

「閉じる」ボタン

このボタンを押下すると、スケジュールデータに変更がある場合はスケジューラ終了確認のポップアップウィンドウが表示されます。「了解」ボタンを選択するとスケジューラは終了し、スケジュールデータは更新されません。「取消」ボタンを選択するとスケジューラ画面に戻ります。

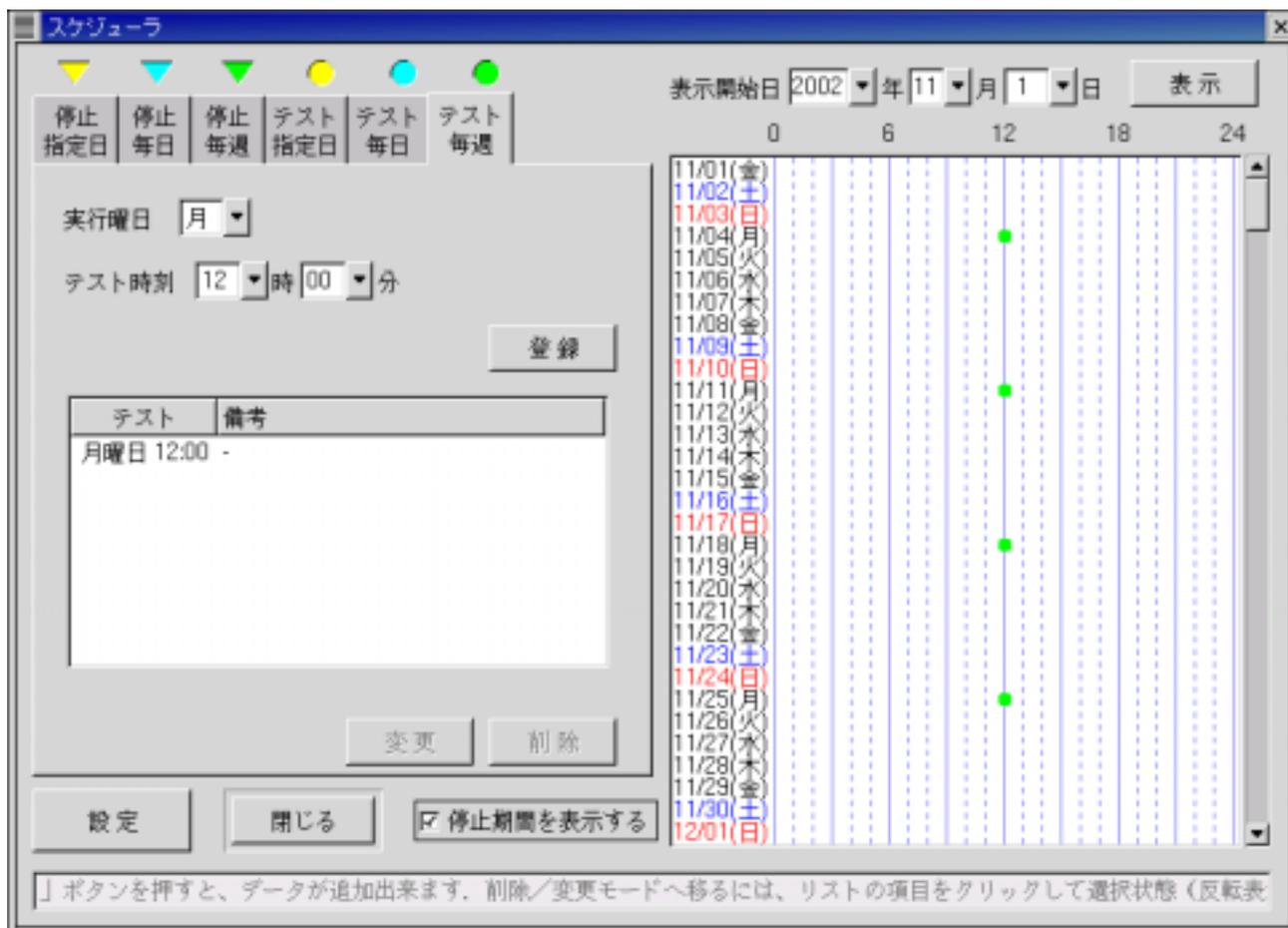


図 49 停止期間を表示した場合の表示

「停止期間を表示する」チェックボックス

このチェックボックスをクリックすると、UPS の停止/起動の表示が反転します。
 初期状態では OFF となっていて、UPS の起動時がバーチャートで表示されています。
 のチェックボックスを ON とすれば、UPS の停止時が色分けされて表示されます。

シャットダウンの種類	表示色
指定日のシャットダウン	黄色
毎日のシャットダウン	水色
毎週のシャットダウン	緑色

「表示開始年」プルダウン

当年を始めとして、5 年分の年リストより、バーチャートの表示開始日の年を選択します。

「表示開始月」プルダウン

月リストより、バーチャートの表示開始日の月を選択します。

「表示開始日」プルダウン

日リストより、バーチャートの表示開始日の日を選択します。

「表示」ボタン

設定された表示開始日を先頭とするバーチャートが表示されます。

6.9. スケジュール運転の前後に停電が発生した場合の動作

スケジュールによる停止時刻より前に停電が発生し、停止期間中に停電から復旧した場合の動作

UPS は停電復旧にて出力を再開し、これに従い UPS 管理プログラムが起動し以下のメッセージをコンソール画面に表示します。

```
Broadcast message from root Fri Oct 4 17:50:58 2002....
```

システムをシャットダウンします

キャンセルするにはスケジュールを削除してください！

注1) 日本語が表示できるコンソール画面以外では文字化けの文字が表示されます。

注2) ログイン画面ではメッセージを表示しませんが UPS 管理プログラム起動から 10 分経過すると未実行スケジュールの停止 / 起動を行います。

スケジュールを削除しない場合、または無操作で UPS 管理プログラム起動から 10 分経過すると未実行のスケジュール停止 / 起動を行います。

例

スケジュール(毎日)設定 : 停止時刻 17:00 起動時刻 8:00

16:00 から 20:00 まで停電による UPS 出力停止。20:00 に停電復旧

この場合

21:00 にスケジュール OFF

スケジュール起動時刻の 8:00 に UPS 再起動

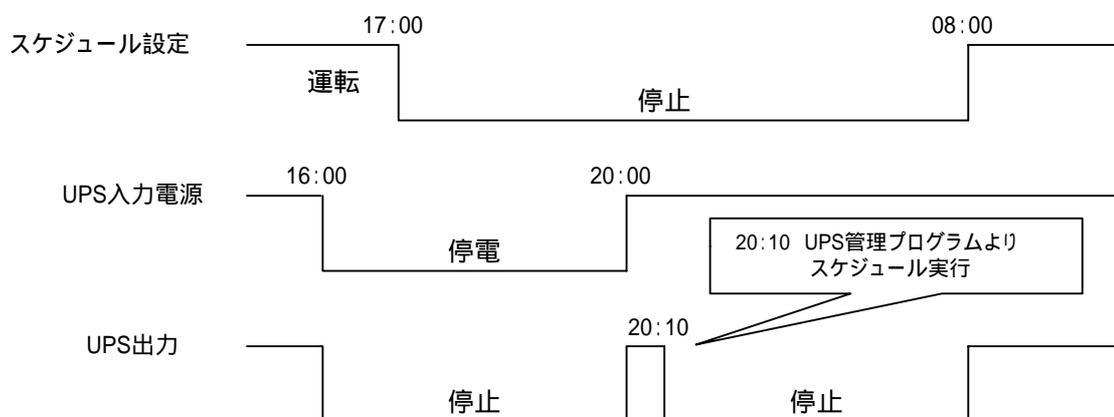


図 50 スケジュールによる停止まえに停電発生時の動作

スケジュール停止中に停電が発生し、起動時刻経過後に停電から復旧した場合

UPS は停電復旧と同時に出力を再開します。

例

スケジュール(毎日)設定 : 停止時刻 17:00 起動時刻 8:00

06:00 から 09:00まで停電

この場合

停電復旧と同時に起動

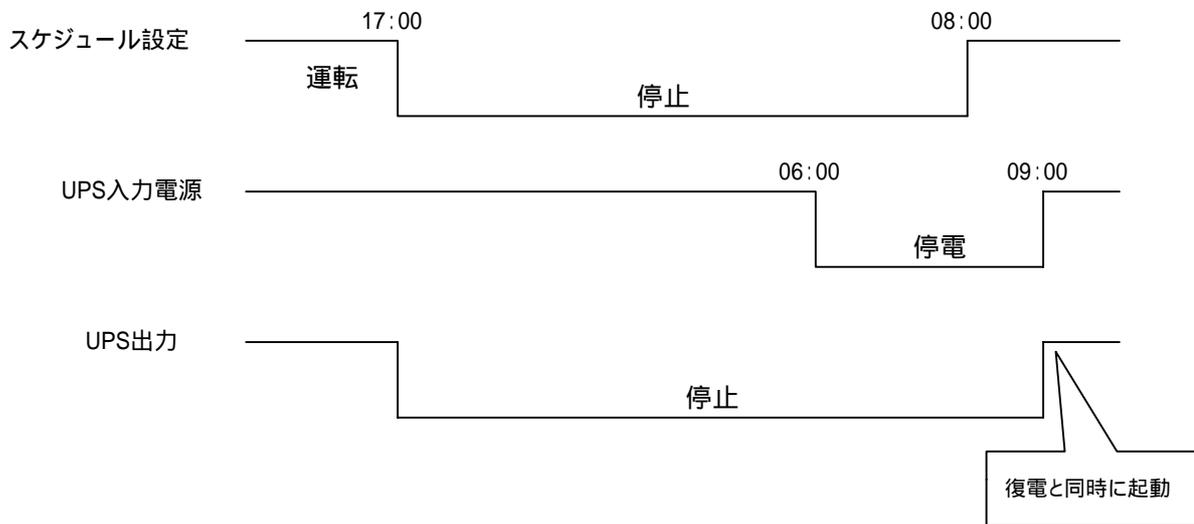


図 51 スケジュール起動時刻に停電中の動作

スケジュール停止期間中に停電が発生し停電が復旧した場合。

停電・復電に関係なくスケジュールどおりに停止 / 起動を行います。

例

スケジュール(毎日)設定 : 停止時刻 17:00 起動時刻 8:00

18:00 から 07:00まで停電

この場合

スケジュール通りに停止 / 起動を行う。

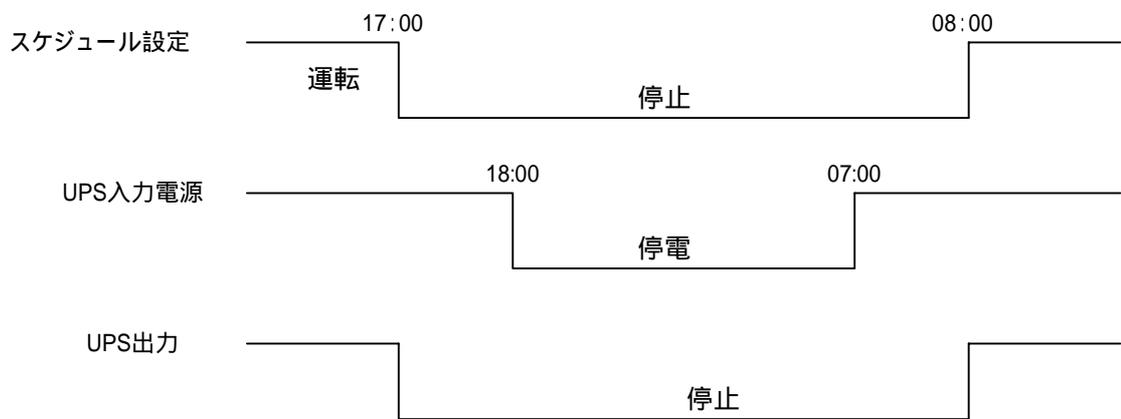


図 52 スケジュール停止期間中に停電発生時の動作

第7章 付録

7.1. トラブルシューティング

7.1.1. スケジュールによるシャットダウンが開始されない。

スケジューラ画面で正常なスケジュールが設定されていることを確認してください。
スケジュールの設定は“第6章スケジューラ”を参照してください。
また、UPS 管理プログラムと UPS モニタプログラムが動作している PC に時間差が無いこと。
両方の PC のタイムゾーンが“アジア/東京”であることを確認してください。

7.1.2. スケジューラで新規スケジュールの登録が出来なくなった。

スケジューラが「削除 / 変更モード」になっていないか確認してください。
「削除 / 変更モード」では登録ボタンは選択できません。
「削除 / 変更モード」から「新規登録モード」に戻るには、選択されているデータを再度選択 (非選択状態に) してください。

7.1.3. Linux で FireWall 設定を適応すると UPSMAN と接続できない。

FireWall 設定でインストールした Linux に NetpowerView F をインストールし、電源管理を行わせる場合、FireWall 内の PC から UPS モニタで FireWall の UPSMAN の状態を取得 (接続) できない場合があります。

NetpowerView F が使用するネットワークポートには以下のものがあります。

他 PC	FireWall	
・UPS モニタ	---> UPSMAN	tcp 5769
・UPSMAN	---> RCCMD	tcp 6003
・SNMP	---> SNMP	udp 161
・SNMPTRAP	<--- SNMPTRAP	udp 162

これらのプロトコル(tcp,udp)とそのポートの使用許可設定の追加を行ってください。